

鳥取市教育委員会事務の
自己点検・評価報告書
(平成26年度事業分)

平成27年12月

鳥取市教育委員会

目次

I はじめに

1 制度の目的	1
2 点検・評価の対象	1
3 点検・評価の方法	2
4 自己点検・評価対象事業一覧	3～6

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員選任状況	7
2 教育委員会会議の開催状況	7
3 教育委員会審議案件	7～8
4 その他の活動状況	9

III 教育委員会の機構及び事務分掌

10～11

IV 点検・評価の結果

1 子育て応援の充実

(1) 放課後児童対策事業	[学校教育課]	15～16
---------------	---------	-------

2 教育の充実

(1) 小中学校改修事業	[教育総務課]	17～18
(2) 小中学校建設改築等事業	[教育総務課]	19～20
(3) 小中学校校舎等耐震補強事業	[教育総務課]	21～22
(4) 学力向上推進事業	[学校教育課]	23～24
(5) 学校不適応対策事業	[学校教育課]	25～28
(6) 自立と創造の学校づくり推進事業	[学校教育課]	29～30
(7) 小学校外国語活動人材支援事業	[学校教育課]	31～32
(8) 小規模校転入制度推進事業	[学校教育課]	33～34
(9) 姫路市・郡山市小中学生交流事業	[学校教育課]	35～36
(10) 地域で学ぶ職場体験活動事業	[学校教育課]	37～38
(11) 学校給食調理委託事業	[学校保健給食課]	39～40
(12) 学校給食費未納対策事業	[学校保健給食課]	41～42
(13) 子育て講座開設事業	[生涯学習・スポーツ課]	43～44
(14) 子どものこころづくり支援「夢の教室」事業	[生涯学習・スポーツ課]	45～46

3	文化財の保存・活用		
(1)	史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備事業	〔文化財課〕	47～48
(2)	史跡等保護・整備事業（青谷上寺地遺跡）	〔文化財課〕	49～50
(3)	史跡等保護・整備事業（旧美歎水源地）	〔文化財課〕	51～52
4	生涯学習の推進		
(1)	市民大学等開催事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	53～54
(2)	成人式開催事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	55～56
(3)	地域社会教育活動総合事業	〔中央図書館〕	57～58
(4)	図書館情報管理システム処理事業	〔中央図書館〕	59～60
5	スポーツ・レクリエーションの振興		
(1)	市民体育祭開催事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	61～62
(2)	姫路市スポーツ大会開催事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	63～64
(3)	鳥取マラソン開催事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	65～66
V	学識経験者の意見（総評）		67～68
VI	資料		
1	自立と創造の学校づくり推進事業 関係		
	平成26年度「自立と創造の学校づくり」推進事業総括表		69～83

I はじめに

1 制度の目的

鳥取市教育委員会は、「自立のこころ」「奉仕のこころ」「チャレンジするこころ」を併せ持った明日を担う人づくりと、自主的・自立的な地域コミュニティを中心とした地域づくりを基本理念とし、学校教育、生涯学習、スポーツの振興、文化財の保護などの分野において様々な施策を実施し、教育行政の充実と向上に努めているところです。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられています。

鳥取市教育委員会は、この法の趣旨に則し、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、平成26年度の事務事業について「教育委員会事務の自己点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。点検・評価に当たっては、学識経験を有する者によるヒアリングを受け、主要な事業の評価及び全体的な総合評価をいただきました。

《参考》 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

鳥取市では、市長部局、議会事務局、各行政委員会等を対象とした「第9次総合計画」（計画年度：平成23～27年度）に基づき、各種事務事業の行政評価を実施しています。平成23年度から内部事務システムに組み込んだ内部評価を、さらに財務会計システムと連動して本格稼働させており、平成27年度（26年度事業対象）の点検・評価に当たっては、昨年度に引き続きこの行政評価を活用するとともに、対象事業の中から、鳥取市教育委員会が重点的に取り組んでいる事業として25事業を抽出し、教育的観点を加えて点検・評価を実施しました。

3 点検・評価の方法

事業ごとの自己点検・評価シートに、教育委員会の自己評価を記入したうえで、学識経験者の所見をいただきました。

さらに、学識経験者からは点検・評価結果全体に対する総合評価をいただきました。

【点検・評価シートの構成】

- ① 基本情報
(総合計画の位置付け)
- ② 事業目的
(対象、意図、手段)
- ③ 事業の年度別計画・実績
- ④ 平成26年度の事務事業実施概要
- ⑤ 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標
- ⑥ 活動指標の達成率
- ⑦ 評価
- ⑧ 事業の成果を踏まえた今後の方向性
- ⑨ 学識経験者の所見

【ご意見をいただいた学識経験者】

- 鳥取大学 理事（教育・国際交流担当）・副学長 中島廣光 氏
- 公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 准教授 石川真澄 氏

4 自己点検・評価対象事業一覧

〔第9次鳥取市総合計画 施策体系・事務事業一覧〕

※ は点検・評価対象事業

まちづくりの目標	政策	施策名	事業名	担当部署
○ 計画推進における基本方針	(1) 自立と協働の強化	①地方分権改革の推進		
		②市民等との協働の推進		
	(2) 行政経営基盤の強化	①効率的な執行体制とサービスの強化	特別支援学級教育振興基金積立事業	学校教育課
			学校医報酬・嘱託報酬	学校保健給食課
		②財政基盤の強化	職員費、嘱託員報酬	教育総務課
			指導主事事業	学校教育課
			職員費	文化財課
			職員費、社会教育指導員等報酬	生涯学習・スポーツ課
	(3) 都市間連携の強化	①鳥取・因幡圏域の連携の推進	基幹公民館運営総務事業	学校保健給食課
			職員費	中央図書館
1 ふるさとを愛し次代を担う人づくり	(1) 次代を築き担う、たくましい子どもを育む	①子育て応援の充実	旧河原幼稚園舎管理事業	教育総務課
			放課後児童対策事業	学校教育課
			奨学資金貸付事業	
			要保護・準要保護児童就学援助事業	学校保健給食課
			特別支援学級教育就学奨励事業	
		②教育の充実	教育委員会運営総務事業	教育総務課
			都市教育長会(全国・中国・県)負担金事業	
			市立学校基金積立事業	
			小中学校扇風機設置事業	
			小中学校暖房器具購入事業	
			学校維持管理(警備、消防、通信、光熱水)事業	
			学校維持補修事業	
			学校一般管理事業	
			通学路除雪用小型除雪機管理事業	
			小中学校改修事業	
			学校図書・教材購入事業	
			特別教室備品整備事業	
			学校用地購入事業	
			中学校P T A事務補助員設置補助事業	
			小中学校建設改築等事業	
			小中学校校舎等耐震補強事業	
			学級増対応設備等整備事業	
			学力向上推進事業	
			教育活動奨励事業	
			教職員研修事業	
			学校不適応対策事業	
			自立と創造の学校づくり推進事業	
			技能センター運営事業	
			小学校外国語活動人材支援事業	
			小規模校転入制度推進事業	
			姫路市・郡山市小中学生交流事業	
			就学指導委員会運営事業	
			生徒指導専任相談員事業	
			障がい児水泳教室事業	
			語学指導等外国青年招致事業	
			市中学校文化連盟補助事業	
			児童生徒表彰事業	
			学校図書館活用推進事業	
地域で学ぶ職場体験活動事業				
複式学級解消事業				
教育改革推進事業				
小中一貫教育推進事業				
校区再編事業				
			学校教育課	

4 自己点検・評価対象事業一覧

[第9次鳥取市総合計画 施策体系・事務事業一覧]

※ は点検・評価対象事業

まちづくりの目標	政策	施策名	事業名	担当部署	
(前ページより) 1 ふるさとを 愛し次代を担 う人づくり	(前ページより) (1) 次代を築き担 う、たくましい 子どもを育む	②教育の充実	学校安全推進事業	学校教育課	
			特別支援教育支援員配置事業		
			学齢簿システム管理事業		
			全国学力・学習状況調査活用支援事業		
			中山間地域ふるさと体験活動支援事業		
			ふるさとの先輩活用事業		
			新教育課程実施推進事業		
			登校支援事業		
			教科指導事業		
			理科設備少額設備整備事業		
			音楽機器管理事業		
			教育用コンピュータ活用事業		
			小学校1・2年生における30人学級実施事業		
			教育研究活動委託事業		
			中学校1年生における33人学級実施事業		
			運動部活動推進事業		
			いじめ防止教育推進事業		
			心や性に関する専門家派遣事業		
			児童生徒事故対策事業		
			教育福祉振興基金奨励事業		
			通学対策事業		
			遠距離通学費補助事業		
			通学用ヘルメット購入補助事業		
			学校保健・衛生管理・結核予防事業		学校保健給食課
			給食配送委託事業		
			学校給食調理委託事業		
			学校給食費扶助事業		
			学校給食センター一般管理事業		
			学校給食費未納対策事業		
			家庭教育学級開設事業		
	少年愛護センター運営事業				
	子育て講座開設事業	生涯学習・ スポーツ課			
	子どもの体力推進事業				
	子どものこころづくり支援「夢の教室」事業				
	小学校全国体育大会遠征補助事業				
	(2) 文化・芸術に 親しみ、楽しむ	①文化芸術の振興 ②文化財の保存・活 用	文化財審議会事業	文化財課	
			指定文化財等管理事業		
			指定文化財池田家墓所管理事業		
			鳥取県指定保護文化財聖神社保存修理事業		
			指定文化財等管理事業（指定文化財・登録有形文化財）		
			登録有形文化財等申請費補助事業		
			無形民俗文化財保存会補助事業		
			ハマナス南限地帯管理事業		
			史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備事業		
			文化施設管理事業（仁風閣・宝扇庵）		
			円通寺人形芝居伝承施設管理事業		
			埋蔵文化財発掘調査事業（文化財調査）		
			文化財体験・活用推進事業（出土品保存修理）		
			歴史民俗資料館・郷土歴史館管理事業		
			史跡等保護・整備事業（青谷上寺地遺跡）		
史跡等保護・整備事業（栃本廃寺跡）					
史跡因幡国庁保存管理事業					
史跡等保護・整備事業（旧美敷水源地）					
天然記念物キマダラルリツバメチョウ現況調査事業					
文化施設管理事業（青谷上寺地遺跡展示館・あおや郷土館）					
名勝観音院保存管理計画策定事業					
文化施設管理事業（歴史博物館）					
文化財保護等運営管理事業					

4 自己点検・評価対象事業一覧

[第9次鳥取市総合計画 施策体系・事務事業一覧]

※ は点検・評価対象事業

まちづくりの目標	政策	施策名	事業名	担当部署
2 心豊かにいきいきと人が輝くまちづくり	(1) 個性を活かし、活躍できる環境をつくる	①協働のまちづくりの推進		
		②生涯学習の推進	教育福祉振興会等補助事業 青少年育成基金積立事業 職員研修事業 生涯学習放送活用事業 市民大学等開催事業 ろうあ成人学級開設事業 まちの先生育成活用事業 生涯学習事務事業 青少年団体育成・イベント助成事業 子どもフェスティバル開催運営事業 市ジュニアリーダー養成講座開設事業 成人式開催事業 P T A 育成事業 ものづくり道場推進事業 地区公民館・基幹公民館事業 文化センター施設管理事業 勤労青少年ホーム施設管理事業 サイクリングターミナル運営管理事業 視聴覚ライブラリー運営管理事業 青少年施設管理事業 農業者トレーニングセンター管理事業 集会所管理事業 社会教育施設管理事業 さじアストロパーク運営管理事業 さじコスモスの館運営管理事業 コミュニティ事業助成金活用事業 電源立地地域対策交付金基金積立事業 地域社会教育活動総合事業 図書館情報管理システム処理事業 図書購入事業 図書館一般管理事業	生涯学習・スポーツ課
3 笑顔があふれ 心やすらぐまちづくり	(1) 健康を守り、いきいきと元気に暮らす	①人権意識の醸成	学校人権教育推進事業	学校教育課
		②男女共同参画社会の形成		
3 笑顔があふれ 心やすらぐまちづくり	(1) 健康を守り、いきいきと元気に暮らす	①保健、医療、福祉の連携強化		
		②健康づくり、疾病予防の推進		
3 笑顔があふれ 心やすらぐまちづくり	(1) 健康を守り、いきいきと元気に暮らす	③スポーツ・レクリエーションの振興	少年スポーツ振興基金積立事業 スポーツ振興審議会委員報酬事業 体育指導委員報酬事業 スポーツ表彰事業 スポーツ教室開催事業 体育事務一般事業 市民総スポーツ運動事業 少年スポーツ指導者研修会事業 市民体育祭開催事業 姫路市スポーツ大会開催事業 スポレク祭開催事業 新春健康マラソン大会開催事業	生涯学習・スポーツ課

4 自己点検・評価対象事業一覧

[第9次鳥取市総合計画 施策体系・事務事業一覧]

※ は点検・評価対象事業

まちづくりの目標	政策	施策名	事業名	担当部署
(前ページより) 3 笑顔があふれ 心やすらぐまちづくり	(前ページより) (1) 健康を守り、いきいきと元気に暮らす	(前ページより) ③スポーツ・レクリエーションの振興	Jリーグ公式戦等運営事業	生涯学習・スポーツ課
			エクアドルキャンプ記念サッカー大会事業	
			小中学校体育連盟補助事業	
			スポーツ大会開催補助事業	
			鳥取マラソン開催事業	
			サッカー場観客輸送支援事業	
			地区体育館管理事業	
			地区体育館整備事業	
			市民体育館整備事業	
			海洋センター整備事業	
			サッカー場整備事業	
			屋外体育施設管理事業	
			海洋センター管理事業	
			プール管理事業	
			プール整備費	
(2) 住み慣れた地域で、支え合い、安心して暮らす	(3) 互いに協力し、くらしの安全を守る	①地域福祉力の向上		
		②安心できる社会保障制度の運営		
		①地域防災力の充実		
4 緑あふれる日本一のふるさとづくり	(1) 地域環境を守り、誇れる自然と共生する	①循環型社会の形成		
		②環境保全活動の推進		
		②公共交通の確保		
		③中心市街地の活性化		
5 人・モノ・情報が行きかいにぎわうまちづくり	(1) 国内外に躍進する、競争力のある産業をつくる	④移住・定住の促進		
		①農林水産業の振興	学校給食地産地消推進事業	学校保健給食課
		②工業の振興		
		③商業・サービス業の振興		
	(2) 魅力、感動、癒しの空間でもてなす	(3) 価値ある情報を発信する	④雇用創出・環境の充実	
			①ビジットとつとりの展開	
			①情報通信技術の活用	
	(4) 環日本海諸国をはじめ、国内外との交流を盛んにする		①交流拠点の魅力創出	

Ⅱ 教育委員会の活動状況

1 教育委員選任状況（平成26年度）

職名	氏名	備考
委員長	柴山 宣慶	
委員長職務代理 （～H26.10.8）	山口 朝子	～H26.10.8
委員長職務代理 （H26.10.9～）	石谷 充	
委員	小枝 達也	
委員	山脇 彰子	H26.10.9～
教育長	木下 法広	

2 教育委員会会議の開催状況

定例教育委員会	12回（毎月1回）
臨時教育委員会	1回

3 教育委員会審議案件

(1) 教育委員会規則・訓令の制定及び改廃	……	18件
(2) 条例改正及び予算の議案についての意見申出	……	4件
(3) 職員の人事に関する事	……	6件
(4) その他	……	4件
合計	……	32件

【教育委員会審議案件一覧】

議案番号	提出(審議)日	種別	件名	担当課
第10号	26. 4. 25	規程(訓令)	鳥取市教育委員会事務決裁規程の一部改正について	教育総務課
第11号	〃	その他	鳥取市いじめ防止基本方針(案)について	学校教育課
第12号	26. 5. 21	予算	平成26年度鳥取市一般会計補正予算(6月補正)について	各課
第13号	〃	条例	鳥取市いじめ防止対策推進委員会条例の制定について	学校教育課
第14号	〃	条例	鳥取市多目的スポーツ広場の設置及び管理に関する条例の一部改正について	体育課
第15号	〃	規則	鳥取市多目的スポーツ広場の設置及び管理に関する条例規則の一部改正について	体育課
第16号	〃	規則	鳥取市地域創造学校運営協議会規則の制定について	学校教育課
第17号	〃	その他	鳥取市中学校文化事業補助金交付要綱の一部改正及び鳥取市中学校文化活動派遣事業補助金交付要綱の制定について	学校教育課
第18号	26. 6. 26	人事	教職員の処分について	学校教育課
第19号	H26. 7. 24	その他	小学校教科用図書の採択について	学校教育課
第20号	H26. 8. 28	条例	鳥取市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	学校教育課校区審議室
第21号	〃	規則	鳥取市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部改正について	学校教育課
第22号	H26. 9. 25	人事	鳥取市教育委員会委員長の選挙について	教育総務課
第23号	H26. 10. 30	人事	教職員の処分について	学校教育課
第24号	H26. 11. 20	予算	平成26年度鳥取市一般会計補正予算(12月補正)について	各課
第25号	H26. 12. 25	人事	教職員の処分について	学校教育課
第1号	H27. 1. 29	条例	鳥取市公民館条例の一部改正について	生涯学習課
第2号	〃	規則	鳥取市文化センターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について	生涯学習課
第3号	H27. 2. 19	予算	平成26年度鳥取市一般会計補正予算(2月補正)について	各課
第4号	〃	予算	平成27年度鳥取市一般会計当初予算について	各課
第5号	〃	その他	専決処分事項の報告について	生涯学習課
第6号	H27. 3. 9	人事	平成27年度教職員定期人事異動の内申について	学校教育課
第7号	〃	人事	教育委員の辞職への同意について	教育総務課
第8号	H27. 3. 19	規則	鳥取市教育委員会会議規則の一部改正について	教育総務課
第9号	〃	規則	鳥取市教育委員会傍聴人規則の一部改正について	教育総務課
第10号	〃	規則	鳥取市教育委員会事務局等組織規則の一部改正について	教育総務課
第11号	〃	規則	鳥取市教育委員会公告式規則の一部改正について	教育総務課
第12号	〃	規則	教育長に対する事務委任等に関する規則の一部改正について	教育総務課
第13号	〃	規程(訓令)	鳥取市教育委員会公印管守規程の一部改正について	教育総務課
第14号	〃	規則	鳥取市立小学校及び中学校の施設の開放に関する規則の一部改正について	体育課
第15号	〃	規則	鳥取市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について	中央図書館
第16号	〃	規程(訓令)	鳥取市立図書館に勤務する職員の勤務時間等に関する規程の一部改正について	中央図書館

4 その他の活動状況

(1) 学校計画訪問

教育現場の実態や課題を把握するとともに、指導や助言を行い、適切な学校運営を支援するため、年次計画的に学校訪問を実施しており、26年度は5月から12月にかけて下記の学校を訪問し、授業（指導案、学習過程）及び学級経営等への指導をとおして、教職員の資質（授業力・教師力）の向上を図りました。

【平成26年度 学校計画訪問実施校】

中学校	東中学校、高草中学校、中ノ郷中学校、国府中学校、 河原中学校、青谷中学校 (6校)
小学校	醇風小学校、修立小学校、富桑小学校、倉田小学校、 美和小学校、大正小学校、世紀小学校、湖山小学校、 浜坂小学校、岩倉小学校、福部小学校、河原第一小学校、 西郷小学校、宝木小学校、青谷小学校 (15校)

(2) 協議会、研修会等への出席

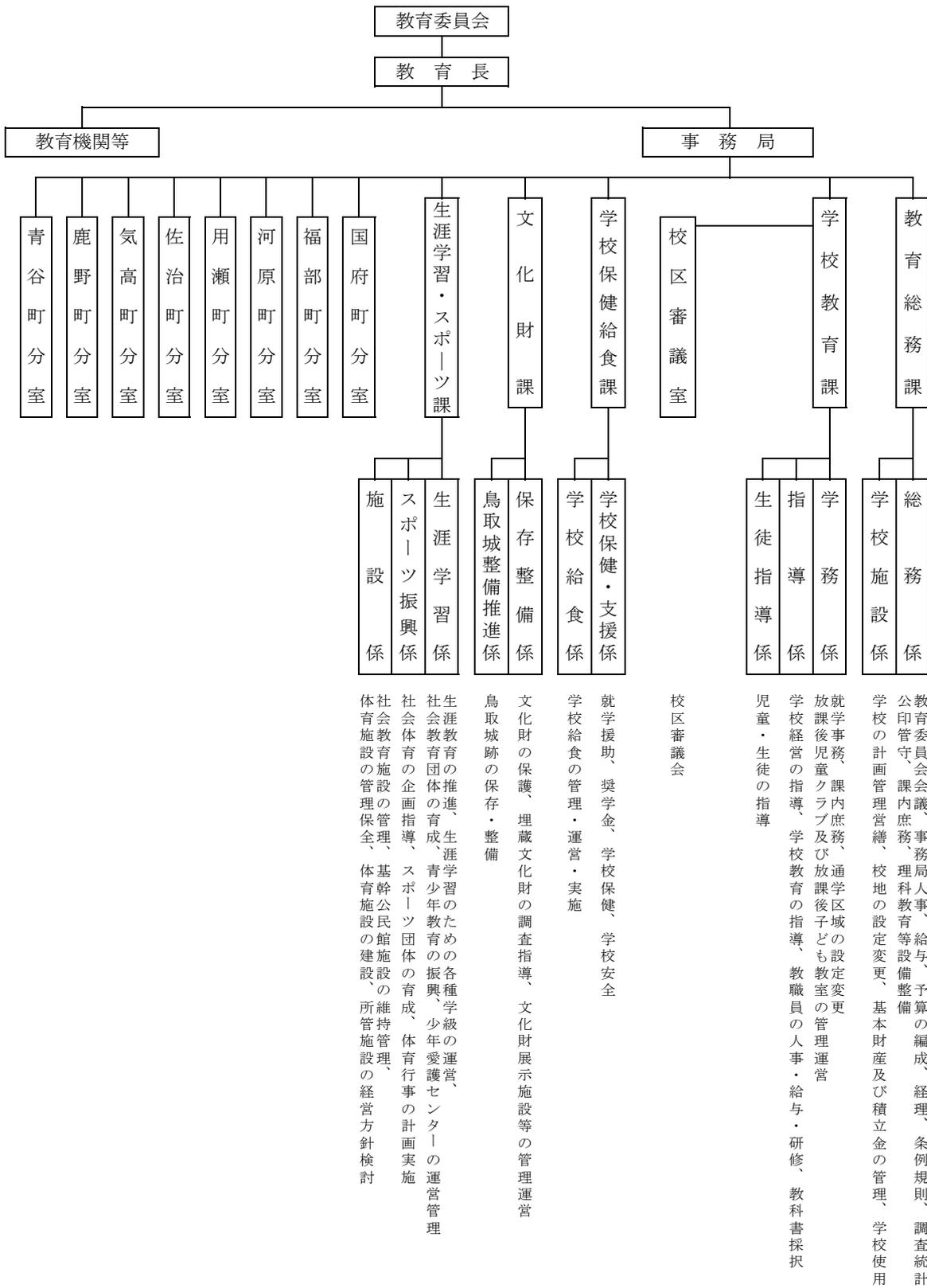
時 期	内 容
7月10日	鳥取県市町村教育委員会研究協議会定期総会 (倉吉市：3名参加)
8月 1日	鳥取県市町村教育委員会教育委員研修会 (倉吉市：3名参加)

(3) 市長・副市長と教育委員との意見交換会

時 期	内 容
1月29日	教育委員会制度改正について 福祉保健部等との連携について (放課後児童クラブ対策・幼小中一貫校) 中山間ふるさと体験活動について

Ⅲ 教育委員会の機構及び事務分掌

平成27年4月1日現在



●教育機関等施設

平成27年4月1日現在

名 称	名 称	名 称	名 称
[小 学 校]	中ノ郷中学校	湖南地区公民館大郷分館	[主なスポーツ施設]
久松小学校	国府中学校	末恒地区公民館	市民プール
醇風小学校	福部中学校	湖山地区公民館	鳥取市海洋センター
遷喬小学校	河原中学校	湖山西地区公民館	千代テニス場
修立小学校	千代南中学校	賀露地区公民館	城北テニス場
日進小学校		千代水地区公民館	とりぎんバードスタジアム
富桑小学校	気高中学校	大茅地区公民館	
稲葉山小学校	鹿野中学校	成器地区公民館	若葉台スポーツセンター
城北小学校	青谷中学校	谷地区公民館	国府町運動場
美保小学校	[幼稚園]	宮下地区公民館	国府町農村勤労福祉センタープール
賀露小学校	福部すなっこ園	あおば地区公民館	
明德小学校	河原あゆっこ園	福部地区公民館	福部町ほっとスイミングプール
倉田小学校	幼児センターこじか園	河原地区公民館	福部町グラウンド
面影小学校	[教育センター]	国英地区公民館	福部町テニスコート
神戸小学校	教育センター	八上地区公民館	河原町総合運動場
美和小学校	[中央公民館]	散岐地区公民館	佐治町B&G海洋センター
大正小学校	中央公民館	西郷地区公民館	佐治町多目的運動広場
東郷小学校		社地区公民館	気高町B&G海洋センター
明治小学校	[基幹公民館]	用瀬地区公民館	気高町運動広場
世紀小学校	国府町中央公民館	大村地区公民館	気高町龍見台テニスコート
湖山小学校	福部町中央公民館	佐治地区公民館	鹿野町B&G海洋センター
湖南学園小学校	河原町中央公民館	宝木地区公民館	鹿野町運動広場
末恒小学校	用瀬町中央公民館	酒津地区公民館	青谷町グラウンド
米里小学校	佐治町中央公民館	瑞穂地区公民館	青谷町グラウンドゴルフ場
津ノ井小学校	気高町中央公民館	逢坂地区公民館	[武 道 館]
浜坂小学校	鹿野町中央公民館	浜村地区公民館	鳥取市武道館
岩倉小学校	青谷町中央公民館	鹿野地区公民館	鳥取市弓道場
美保南小学校	[地区公民館]	勝谷地区公民館	福部町武道館
湖山西小学校	久松地区公民館	小鷲河地区公民館	[学校給食施設]
中ノ郷小学校	遷喬地区公民館	青谷地区公民館	第一学校給食センター
若葉台小学校	城北地区公民館	日置地区公民館	第二学校給食センター
宮ノ下小学校	浜坂地区公民館	日置谷地区公民館	湖東学校給食センター
国府東小学校	中ノ郷地区公民館	勝部地区公民館	国府学校給食センター
福部小学校	醇風地区公民館	中郷地区公民館	河原学校給食センター
河原第一小学校	修立地区公民館	[生涯学習施設]	気高学校給食センター
西郷小学校	日進地区公民館	鳥取市文化センター	鹿野学校給食センター
散岐小学校	富桑地区公民館	鳥取市こども科学館	青谷学校給食センター
用瀬小学校	明德地区公民館	鳥取市福祉文化会館	[主な文化観光施設]
佐治小学校	美保地区公民館	鳥取市勤労青少年ホーム	仁風閣
宝木小学校	美保南地区公民館	鳥取市サイクリングターミナル砂丘の家	鳥取世界おもちゃ館 (わらべ館)
瑞穂小学校	稲葉山地区公民館	鳥取市視聴覚ライブラリー	
浜村小学校	岩倉地区公民館	鳥取市生涯学習センター	鳥取市歴史博物館 (やまびこ館)
逢坂小学校	倉田地区公民館	[主な体育施設]	
鹿野小学校	面影地区公民館	市民体育館	因幡万葉歴史館
青谷小学校	津ノ井地区公民館		河原歴史民俗資料館
[中 学 校]	若葉台地区公民館	福部町体育館	用瀬郷土歴史館
東中学校	米里地区公民館	河原町総合体育館	佐治天文台 (さびアストロパーク)
東中学校のぞみ分校	神戸地区公民館	河原町勤労者体育館	
西中学校	大和地区公民館	用瀬町勤労者体育センター	佐治歴史民俗資料館
南中学校	美穂地区公民館	気高町体育館	青谷上寺地遺跡展示館
北中学校	東郷地区公民館	気高町勤労者体育センター	あおや郷土館
江山中学校	大正地区公民館	気高町農業者トレーニングセンター	[図 書 館]
高草中学校	豊実地区公民館	鹿野町農業者トレーニングセンター	鳥取市立中央図書館 (市役所駅南庁舎)
湖東中学校	明治地区公民館	青谷町体育館	
湖南学園中学校	松保地区公民館		用瀬図書館
桜ヶ丘中学校	湖南地区公民館	青谷町農林漁業者トレーニングセンター	気高図書館

自己点検・評価の結果

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-①	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	放課後児童対策事業	所属名 教育委員会事務局 学校教育課

1. 基本情報

位置づけ 総合計画の	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1101	子育て応援の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	(1) 放課後児童クラブ 小学校 児童・保護者 (2) 放課後児童クラブ警備 放課後児童クラブの専用施設 (3) 放課後子ども教室 小学校 児童・保護者
意図 (どのような状態にするために)	(1) 昼間保護者が就労のため家にいない小学校児童を授業の終了後預かり、適切な遊び及び生活の場を与えることで児童の健全育成を図る。 (2) 施設での非常事態発生時に、迅速かつ的確に通報可能なシステムを維持し、児童の安全確保と被害の拡大防止を図る。 (3) 小学校区において放課後や週末等に、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動・体験活動等の取り組みを実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境作りを推進する。
手段 (どうするのか)	(1) 小学校児童を学校の余裕教室や専用施設等で預かり、遊びや集団生活の場を提供する。 (2) 緊急通報システムの機械警備業務を専門業者に委託する。 (3) 小学校の空き教室や小学校近隣の公共施設等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の様々な資質を有する多くの大人の参画を得て子ども教室を実施する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	(1) 放課後児童クラブの設置・運営、保護者会等に運営委託 (2) 施設警備委託 (3) 放課後子ども教室の設置 (明治小・神戸小・東郷小、気高地域)	(1) 放課後児童クラブの設置・運営、保護者会等に運営委託 (2) 施設警備委託 (3) 放課後子ども教室の設置	(1) 放課後児童クラブの設置・運営、保護者会等に運営委託 (2) 施設警備委託 (3) 放課後子ども教室の設置	(1) 放課後児童クラブの設置・運営、保護者会等に運営委託 (2) 施設警備委託 (3) 放課後子ども教室の設置	(1) 放課後児童クラブの設置・運営、保護者会等に運営委託 (2) 施設警備委託 (3) 放課後子ども教室の設置	
	年度別実績	(1) 放課後児童クラブ43クラブを開設、保護者会等に委託実施 (2) 施設警備委託 (3) 放課後子ども教室の設置 (明治小・神戸小・東郷小)	(1) 放課後児童クラブ45クラブを開設、保護者会等に委託実施 (2) 施設警備委託 (3) 放課後子ども教室の設置 (明治小・神戸小・東郷小)	(1) 放課後児童クラブ45クラブを開設、保護者会等に委託実施 (2) 施設警備委託 (3) 放課後子ども教室の設置 (明治小・神戸小・東郷小)	(1) 放課後児童クラブ47クラブを開設、保護者会等に委託実施 (2) 施設警備委託 (3) 放課後子ども教室の設置 (明治小・神戸小・東郷小)		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	
	事業費(A+B)	283,733	239,552	258,701	319,708	344,324	
	直接経費 A	268,364	224,329	243,767	298,646	344,324	
	直接経費の財源内訳	国・県	143,171	123,704	133,466	169,422	169,860
		地方債	28,200	0	2,300	10,100	35,200
		その他				3	3
一般財源	96,993	100,625	108,001	119,121	139,261		
人件費 B	15,369	15,223	14,934	21,062			
職員数の内訳	正規職員	2.05	2.05	2.05	2.80		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要</p> <p>(1) 保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校児童の育成支援を行うため、放課後児童クラブを設置する。</p> <p>(2) 緊急通報システムの機械警備業務を警備会社に委託する。</p> <p>(3) 放課後や週末等における地域の子どもの安全・安心な活動拠点(居場所)を確保する。地域の様々な資質を有する多くの大人の参画を得て、子どもたちに、様々な体験・交流・学習活動の機会を提供する。事業の円滑な実施や、より充実した魅力のある事業にするため、放課後子ども教室運営委員会を開催する。</p> <p>2 事業の成果</p> <p>(1) 47クラブの運営利用者数1,918人 専用施設整備(米里)、分割・新設(城北砂山第二・末恒第二)、拡充(賀露等)</p> <p>(2) 対象施設(17施設:世紀、湖山西、美保、若葉台、末恒、城北、浜村、中ノ郷、遷喬、美保第二、美保南、日進、浜坂、醇風、津ノ井、宝木、米里)</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	放課後児童クラブ設置数	箇所	目標	42	44	45	46	46
		実績		43	45	45	47		
(指標の説明)									
2	放課後子ども教室設置数	箇所	目標	4	4	3	3	3	3
			実績	3	3	3	3		
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	放課後児童クラブ設置数	箇所	102%	102%	100%	102%	
		2		放課後子ども教室設置数	箇所	75%	75%	100%

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	(1) 対象と意図は明確であり、目的は適切であった。 (2) 適切な目的である。 (3) 放課後児童クラブを開設するのが難しい小規模校区を対象としており、一定の支援が必要。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	(1) 放課後児童対策として有効な事業である。 (2) 非常事態は発生していないが、必要な事業である。 (3) おおむね好評である。特に保護者のニーズは高いものがある。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	(1) 保護者会運営は地域の实情にあった運営が可能で、かつ市の事務コストを抑えられることから一定の効率性があるが、現行の保護者会への委託のあり方について、引き続き検討する。 (2) 案件により、随意契約か競争入札を行っており、効率的な委託を行っている。 (3) 地域住民の協力のもと事業を行っており、それぞれの地域の事情やニーズにあった柔軟な運営形態を取っている。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	(1) 児童クラブの实情にあったサービスが提供されている。 (2) 適切である。 (3) 放課後児童クラブの創設が難しい地域に開設しており、対象は適切と考える。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	(1) 共働きや一人親家庭の増加により、放課後児童クラブのニーズは年々高まっており、この傾向は今後も続くと考えられる。 (2) 施設を安全に管理運営するため、本事業は有効である。 (3) 全小学校区に放課後や週末等における子どもたちの安心・安全な活動拠点を確保するため『放課後児童クラブ』の開設が難しい小学校区には「放課後子ども教室」を開設していく方針である。	
今後の課題・方向性	(1) 平成27年度から施行予定の子ども・子育て支援新制度により、小学校4年生以上も対象児童とされたことも踏まえ、大規模化が進行しているクラブの分割等に引き続き取り組む。 また、新制度により、本年度から指導員の認定資格研修を県が実施することとなっており、受講の促進を図り、有資格者（放課後児童支援員）を養成していく。 (2) 今後も機械警備業務を専門業者に委託していく。 (3) 事業実施地域の評価・ニーズとも高く、今後とも放課後児童クラブの開設が難しい小学校区で実施していく方針である。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	女性が働きやすい社会をつくるためには働く女性の子どもたちへのケアが必要である。また、子どもたちの教育への地域の関わりも子育ての上では重要である。そういった意味で、新制度で、対象児童の枠が拡大されたことは評価できる。昨年度、丸投げではなく自治体による関与の必要性を指摘したが、本年度から指導員の認定資格研修が実施されることは自治体等による管理という点で評価できる。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	これまで施設の拡充に取り組んできたこともあり、需要の大きい事業にも関わらず待機者の問題は生じていない点は評価される。規模の拡大が求められる一方で、学校施設の供用などの取り組みも進めており、費用を抑える努力もみられる。今後、制度変更にとまなう対象年齢層の拡大に対応して一層の充実が求められる。また、拡大した規模に応じて地域における存在も大きくなっていると思われ、事業の内容やそれに関わる担当者の質的な改善への取り組みの充実が期待される。なお、活動指標やその達成度の評価が設置数となっているが、施設を設置することが目的となっているわけではない状況からすれば見直しが必要である。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	小中学校改修事業	所属名 教育委員会事務局 教育総務課

1. 基本情報

位置づけの 総合計画の	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	(1) 体育館 小中学校24校 (2) 宮ノ下小学校 (3) 桜ヶ丘中学校 (4) 福部小学校 (5) 西中・南中学校
意図 (どのような状態にするために)	法適合かつ快適な教育環境の確保のため、それぞれの施設改修・施設整備を行う。
手段 (どうするのか)	(1) 体育館 小中学校24校 体育館LED照明器具取り替え (2) 宮ノ下小学校 屋内運動場屋根改修 (3) 桜ヶ丘中学校 弓道場屋根設置工事 (4) 福部小学校 下水道接続工事 (5) 西中・南中学校 エアコン改修設計

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	①校舎外壁改修工事 ②保健室改修、衛生環境整備など ③プールの改修、屋外運動場整備工事 ④屋内運動場の屋根等の改修 ⑤扇風機の設置	①公共下水道接続工事 ②灯油地下タンク改修工事	①校舎、屋内運動場屋根改修 ②灯油地下タンク改修 ③廃校プール解体 ④防球ネット改修 ⑤屋内運動場照明LED化 ⑥バスケゴールライン改修 ⑦体育館軒天、屋根修繕	①体育館照明LED化 ②屋内運動場屋根改修工事 ③弓道場屋根設置工事 ④下水道接続工事 ⑤エアコン改修設計	①体育館照明LED化 ②弓道場屋根設置工事 ③エアコン改修設計・工事	
	年度別実績	①校舎外壁改修工事 ②保健室改修、衛生環境整備など ③プールの改修、屋外運動場整備工事 ④屋内運動場の屋根等の改修 ⑤扇風機の設置	①公共下水道接続工事 ②灯油地下タンク改修工事	①校舎、屋内運動場屋根改修 ②灯油地下タンク改修 ③廃校プール解体 ④防球ネット改修 ⑤屋内運動場照明LED化 ⑥バスケゴールライン改修 ⑦体育館軒天、屋根修繕	①体育館照明LED化 ②屋内運動場屋根改修工事 ③弓道場屋根設置工事 ④下水道接続工事 ⑤エアコン改修設計		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	127,153	11,310	30,910	57,433	195,521	
	直接経費 A	123,778	9,825	29,453	53,672	195,521	
	直接経費の財源内訳	国・県	0	2,200	0	5,420	18,666
		地方債	82,400	4,400	13,300	39,400	155,300
		その他	0	0	0	4,900	0
一般財源	41,378	3,225	16,153	3,952	21,555		
人件費 B	3,375	1,485	1,457	3,761			
職員数の内訳	正規職員	0.45	0.20	0.20	0.50		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	(1) 体育館 小中学校24校 体育館LED照明器具取り替え (2) 宮ノ下小学校 屋内運動場屋根改修 (3) 桜ヶ丘中学校 弓道場屋根設置工事 (4) 福部小学校 下水道接続工事 (5) 西中・南中学校 エアコン改修設計
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	小中学校改修施設数	校	目標	4	4	8	5	6
				実績	4	4	8	5	
	(指標の説明) 市内小中学校における大規模改修校の数								
	2	扇風機設置校数	校	目標	44	44	44		
実績				44	44	44			
(指標の説明) 扇風機設置校数									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	小中学校改修施設数	校	100%	100%	100%	100%	
	2	扇風機設置校数	校	100%	100%	100%		

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	学校施設の緊急度を考慮して、必要な整備を実施している。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	学校施設の緊急度を考慮して、必要な整備を実施している。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	年次的な整備計画を立て、急がれるものから必要な整備を実施。交付金・合併特例債など、有利な財源確保を行っている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	年次的な整備計画を立て、急がれるものから必要な整備を実施。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加
	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続	<input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善	<input checked="" type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合
	<input type="checkbox"/> 3. 現状維持		
	<input type="checkbox"/> 4. 縮小	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少
	<input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止	<input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	安全・安心な教育環境を確保するため、また社会体育利用者の安全を確保するため、今後も急がれるものから必要な整備を継続していく必要がある。 また、猛暑対策として、今年度から中学校3年生教室等へのエアコン整備に着手した。		
今後の課題・方向性	児童・生徒の安全・安心な教育環境を確保するため、また社会体育利用者の安全を確保するため、今後も必要な整備を継続していく必要がある。 特に、震災以降は耐震化を優先してきたことから、トイレなどの改修を先延ばししており、今後の年次計画策定が急がれる。		

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	計画通りに進んでいる。児童生徒の安全・安心な教育環境を確保するために、小中学校の老朽化部分の改修を着実に進めて頂きたい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	他の施設整備関連事業と連携させ全体的な見地から重要度を判断し、計画的に進められていると評価できる。一部で開始されたエアコンの設置については近年の気候や児童生徒の家庭環境を考慮すれば歓迎されるものであるが、省エネの観点からの配慮も併せて求めたい。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	小中学校建設改築等事業	所属名 教育委員会事務局 教育総務課

1. 基本情報

位置づけの 総合計画の	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	(1) 千代南中学校(佐治・用瀬中学校統合) (2) 北中学校 (3) 青谷中学校 (4) 気高中学校
意図 (どのような状態にするために)	○ 教育環境の充実・整備 ○ 地震発生時の生徒・教職員の安全確保、非常時の避難場所としての機能整備
手段 (どうするのか)	(1) 千代南中学校(佐治・用瀬中学校統合) 外構工事 (2) 北中学校 校舎改築 (3) 青谷中学校 校舎改築設計、解体工事 (4) 気高中学校 校舎改築設計

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

内容	年度別計画	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	年度別実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 修立小学校屋外運動場整備 ・ 河原中学校校舎改築、備品等整備、屋内運動場整備、屋外運動場整備 ・ 南中学校校舎改築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河原中学校屋内運動場整備、屋外運動場整備 ・ 南中学校校舎改築 ・ 佐治・用瀬中学校統合校舎改築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南中学校校舎改築 ・ 千代南中学校校舎改築、備品等整備 ・ 北中学校校舎改築 ・ 河原中学校屋外環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 千代南中学校 外構工事 ・ 北中学校校舎改築 ・ 青谷中学校校舎改築設計 ・ 気高中学校校舎改築設計 	/
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	1,062,053	1,006,038	1,197,809	553,717	1,845,617	
	直接経費 A	1,052,678	1,000,468	1,191,981	542,434	1,845,617	
	直接経費の財源内訳	国・県	269,335	287,106	480,093	134,603	192,743
		地方債	719,400	328,200	662,000	399,700	1,615,900
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	63,943	385,162	49,888	8,131	36,974
人件費 B	9,375	5,570	5,828	11,283			
職員数の内訳	正規職員	1.25	0.75	0.80	1.50		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	(1) 千代南中学校(佐治・用瀬中学校統合) 外構工事 (2) 北中学校 校舎改築 (3) 青谷中学校 校舎改築設計、解体工事 (4) 気高中学校 校舎改築設計
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	小中学校施設の改築の棟数	校	目標	2	3	4	1	2
				実績	2	3	4	1	
	(指標の説明) 小中学校建設・改築の棟数(工事施工数)								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	小中学校施設の改築の棟数	校	100%	100%	100%	100%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	学校施設の老朽化・耐震不足等を考慮して、年次計画的に整備を実施している。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	学校施設の老朽化・耐震不足等を考慮して、年次計画的に整備を実施している。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	年次的な整備計画を立て、必要な整備を実施。国庫補助金、合併特例債など、有利な財源確保を行っている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	年次的な整備計画を立て、必要な整備を実施。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合
	<input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	安全・安心な教育環境を確保するため、災害時の避難所を確保するため、今後も必要な整備を継続していく必要がある。	
今後の課題・方向性	(1) 北中学校 平成25～28年度工事实施(校舎本体は27年度完成予定) (2) 青谷中学校 平成26～29年度工事实施 (3) 気高中学校 平成27～28年度工事实施 ファシリティーマネジメントの観点から、当面は、既存施設の長寿命化を図る必要がある。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	計画通りに進んでいる。児童生徒に安全・安心な教育環境を確保するために、改修事業では対応しきれない老朽化部分については、透明性のある方法で優先順位を決定し、改築事業の計画を策定、速やかに事業を進めて頂きたい。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	他の施設整備関連事業と連携させ全体的な見地から重要度を判断し、計画的に進められていると評価できる。
--------	---

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	小中学校校舎等耐震補強事業	所属名 教育委員会事務局 教育総務課

1. 基本情報

位置づけの 総合計画	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	(1) 小中学校校舎等の耐震判定 ①神戸小校舎 ②西郷小校舎 ③米里小校舎 ④浜村小校舎 ⑤河原第一小校舎 ⑥明德小屋内運動場 ⑦桜ヶ丘中屋内運動場 (2) 小中学校校舎等の耐震補強整備 ①倉田小校舎 ②大正小校舎 ③米里小屋内運動場 ④美保小屋内運動場 ⑤東中校舎 ⑥桜ヶ丘中校舎
意図 (どのような状態にするために)	地震発生時における生徒・教職員の安全を確保するとともに、非常時における避難場所としての機能を果たす。
手段 (どうするのか)	耐震補強工事に併せて屋上防水工事等を行い、施設の劣化防止や機能回復を図る。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	耐震補強工事 大規模改修工事耐震補強計画業務 及び実施設計業務	耐震補強工事 補強計画業務 及び実施設計業務	耐震補強工事 補強計画業務 及び実施設計業務	耐震補強工事 補強計画業務 及び実施設計業務	耐震補強工事 補強計画業務 及び実施設計業務	
	年度別実績	耐震補強工事 補強計画業務 及び実施設計業務	耐震補強工事 補強計画業務 及び実施設計業務	耐震補強工事 補強計画業務 及び実施設計業務	耐震補強工事 補強計画業務 及び実施設計業務	/	
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	442,642	964,372	476,045	691,104	962,920	
	直接経費 A	439,642	952,490	465,117	677,564	962,920	
	直接経費の財源内訳	国・県	109,331	312,670	180,882	208,981	195,434
		地方債	303,700	402,800	275,400	437,600	740,900
		その他	0	141,633	0	0	0
一般財源	26,611	95,387	8,835	30,983	26,586		
人件費 B	3,000	11,882	10,928	13,540			
職員数の内訳	正規職員	0.40	1.60	1.50	1.80		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要</p> <p>(1) 小中学校校舎等の耐震判定 ①神戸小校舎 ②西郷小校舎 ③米里小校舎 ④浜村小校舎 ⑤河原第一小校舎 ⑥明德小屋内運動場 ⑦桜ヶ丘中屋内運動場</p> <p>(2) 小中学校校舎等の耐震補強整備 ①倉田小校舎 ②大正小校舎 ③米里小屋内運動場 ④美保小屋内運動場 ⑤東中校舎 ⑥桜ヶ丘中校舎</p> <p>2 事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震判定 7 学校・施設 ・耐震補強 4 校 (完了校) 2 校 (平成27年度完成 (米里含む))
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	小中学校耐震補強整備数	校	目標	2	5	3	4	6
				実績	2	5	3	4	
	(指標の説明) 小中学校耐震補強整備完了校数								
	2	小中学校施設耐震化率	%	目標	73.8	83.0	87.6	92.0	98.6
実績				73.8	83.0	87.6	92.0		
(指標の説明) 市内全校に占める耐震補強整備校の割合									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	小中学校耐震補強整備数	校	100%	100%	100%	100%	
	2	小中学校施設耐震化率	%	100%	100%	100%	100%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	学校施設の耐震不足等を考慮して、年次計画的に整備を実施している。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	学校施設の耐震不足等を考慮して、年次計画的に整備を実施している。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	年次的な整備計画を立て、必要な整備を実施。国庫補助金、合併特例債など、有利な財源確保を行っている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	年次的な整備計画を立て、必要な整備を実施。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加
	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続	<input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善	<input checked="" type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合
	<input type="checkbox"/> 3. 現状維持		
	<input type="checkbox"/> 4. 縮小	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少
担当課等の評価コメント	小中学校は児童生徒にとって一日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、非常災害時には地域住民の応急避難場所となるなど地域の防災拠点としての役割を担っているため、その安全性の確保は極めて重要であり、耐震化を着実に実施してきている。		
	耐震工法については、工事期間中の学校運営、仮設校舎、事業経費を考慮しながら、効率的な施工とするよう努めたい。		
今後の課題・方向性	平成19年度から取り組んできた耐震化事業が、平成27年度末で校舎については耐震化率100%となる予定としており、一部を残して一定の目途がつく。しかし、その間先延ばししてきた老朽改修が待たなしの状況であり、年次計画を立てて取り組む必要がある。		

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	計画通り進んでおり、平成27年度末で耐震化率100%となる。その後の老朽改修の年次計画の策定と予算確保に速やかに取り組んで頂きたい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	他の施設整備関連事業と連携させ全体的な見地から重要度を判断し、計画的に進められていると評価できる。耐震補強事業の完了が近いが、最終後の施設整備についても同様に優先順位を明確にした取り組みを期待したい。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画					
事務事業名	学力向上推進事業	所属名	教育委員会事務局 学校教育課				
1. 基本情報							
総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称				
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり				
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む				
	施策	1102	教育の充実				
2. 事業目的【PLAN】							
対象 (何を、誰を)	小中学校児童生徒						
意図 (どのような状態にするために)	児童生徒個々が「確かな学力」を身につける。						
手段 (どうするのか)	基礎学力の定着と学力の向上に向けた全市的な施策を実施する。						
3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】							
内容	年度別計画	平成23年度 講師招聘 学力向上推進事委託	平成24年度 講師招聘 学力向上推進事委託	平成25年度 講師招聘 学力向上推進事委託	平成26年度 講師招聘	平成27年度 講師招聘	
	年度別実績	・学力向上推進事業委託 ・基礎学力定着支援事業 ・児童生徒学力向上教材整備	・学力向上推進事業委託 ・基礎学力定着支援事業 ・児童生徒学力向上教材整備	・学力向上推進事業委託 ・基礎学力定着支援事業 ・児童生徒学力向上教材整備	・基礎学力定着支援事業	/	
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	
	事業費(A+B)	10,046	10,436	10,241	4,938	4,690	
	直接経費 A	9,296	9,693	9,512	4,186	4,690	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	9,296	9,693	9,512	4,186	4,690		
人件費 B	750	743	729	752			
職員数の内訳	正規職員	0.10	0.10	0.10	0.10		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】							
事務事業の実施概要	【事業の概要】 1 地域の人材を活用しながら進める「基礎学力定着支援事業」						
	【事業の成果】 基礎学力定着支援事業は、基礎・基本事項の定着が不十分な児童・生徒のみならずすべての児童・生徒の学力支援策として放課後、長期休業中に実施されており、市内61小中学校で、支援者166名によって、のべ2,791時間実施された。トリニティープランは学校・地域・保護者の連携によって、学習習慣の定着に努めており、全国学力・学習状況調査でも家庭学習の定着で良好な結果を維持している。						

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	地域の人材(講師)を活用した授業の実施回数	回	目標	3,100	3,100	3,050	3,100	3,100
				実績	2,474	2,654	2,683	2,791	
	(指標の説明)								
	2	学力向上推進事業委託数 →参加児童生徒数(平成26年度より)	地域	目標	18	18	17		
実績				18	18	17			
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	地域の人材(講師)を活用した授業の実施回数	回	80%	86%	88%	90%	
	2	学力向上推進事業委託数 →参加児童生徒数(平成26年度より)	地域	100%	100%	100%		

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	全ての児童生徒を対象とした事業であり、市が関与し実施することが妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	全国学力・学習状況調査では、小中学校とも良好な結果を維持しており、おの事業の成果の1つと考えている。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	放課後や長期休業などに実施しており、授業以外の学力向上策として有効かつ効率的に実施されている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	すべての児童生徒を対象としているが、学力の定着が不十分な児童生徒への個別支援にも活用されており、より児童生徒の実態に即した活用となっており、有効である。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	学校・保護者・地域の連携による事業であり、すべての児童生徒の学力向上につながる大変有効な事業である。平成26年度より、基礎学力定着支援事業のみとし、全小中学校で実施した。	
今後の課題・方向性	学力向上は学校の責務であるが、目的意識や学ぶ意欲、学習習慣の育成などには、家庭や地域の協力が欠かせない。今後も、保護者や地域への情報発信を推し進め、地域の声を反映させるとともに、地域人材を放課後等の学習指導、学習習慣の定着を図るための支援者として積極的に活用し、学校・保護者・地域が協働した学力向上策を進めることで、その効果をさらに高めたい。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	児童生徒の学習時間を確保して、学習習慣をつけるためには必要な事業と考える。この事業の評価と改善のために、実際に児童生徒に学習習慣がついたのか、あるいは成績向上に結びついたのかの検証が必要。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	「学力」について学力テスト等に基づく狭義の捉え方はせず、総合的なものが目標として想定されている。一方で、総合的な「学力」を評価する手法については未成熟であり、事業効果の評価を困難なものとしている。総合的な「学力」の定着について評価する手法の改善を期待したい。
--------	---

自己点検・評価シート

平成26年度 第9次鳥取市総合計画

整理No.	1-(1)-②	所属名	教育委員会事務局 学校教育課・教育センター
事務事業名	学校不適応対策事業		

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	1 教育センター運営 小中学生及び教職員 2 学校不適応対策専門委員会等 鳥取市立小学校・中学校、及びその児童・生徒 3 スクールソーシャルワーカー活用 鳥取市立小学校・中学校の関係諸機関との連携体制
意図 (どのような状態にするために)	1 学校や家庭、地域からのニーズに応じた各種相談や支援の提供により、子どもの社会的自立や学校力、教師力の向上を援助し、本市が抱える教育課題の解決や改善を図る。 2 鳥取市立小学校・中学校の児童・生徒の学校不適応傾向の解消・未然防止 3 教育と福祉に関する諸機関と連携しながら子どもやその保護者に対応し、効果的な支援を行う。
手段 (どうするのか)	1 ①学校不適応（不登校・問題行動等）及び発達障がい等を有する児童生徒への支援を行う。 ② 保護者及び児童生徒、教職員等への教育相談活動を実施する。 ③専門的知識や技能等、教育的実践力を有した教職員の養成のための研修の実施、及び教員OB等による学校支援を行う。 2 鳥取市学校不適応対策専門委員会での不適応対策について総括的に討議し、学校不適応の未然防止と課題解消を推進する。特に地域を含めた中学校区の学校の連携を強め、小中の連続性のある不適応対策、児童生徒支援を行っていく。 3 学校や関係諸機関との連絡調整やケース会議の運営、該当の児童生徒や保護者に対しての相談や働きかけを行う。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
内容	年度別計画	1 教育相談延べ500件、適応指導教室「すなはま」通級数延べ1,000人、教師力・授業力研修10回250人参加、ひびきセミナー10回200人参加、研修室利用延べ5,500人、体育館利用延べ27,500人 2 学校不適応対策専門委員会の開催ほか 3 スクールソーシャルワーカーによる相談支援 4 訪問相談の実施教育支援会議の開催ネットワーク事業の実施	1 教育相談延べ500件、適応指導教室「すなはま」通級数延べ1,000人、教師力・授業力研修7回140人参加、ひびきセミナー3回100人参加、研修室利用延べ5,500人、体育館利用延べ27,500人 2 学校不適応対策専門委員会の開催ほか 3 スクールソーシャルワーカーによる相談支援 4 訪問相談の実施や教育支援会議の開催	1 教育相談延べ500件、適応指導教室「すなはま」通級数延べ1,000人、教師力・授業力研修2回50人参加、ひびきセミナー5回150人参加、研修室利用延べ6,000人、体育館利用延べ27,500人 2 学校不適応対策専門委員会の開催ほか 3 スクールソーシャルワーカーによる相談支援	1 教育相談延べ500件、適応指導教室「すなはま」通級数延べ1,000人、教師力・授業力研修2回50人参加、ひびきセミナー5回150人参加、研修室利用延べ6,000人、体育館利用延べ27,500人 2 学校不適応対策専門委員会の開催ほか 3 スクールソーシャルワーカーによる相談支援	1 教育相談延べ500件、適応指導教室「すなはま」通級数延べ1,000人、教師力・授業力研修2回50人参加、ひびきセミナー5回150人参加、研修室利用延べ6,000人、体育館利用延べ27,500人 2 学校不適応対策専門委員会の開催ほか 3 スクールソーシャルワーカーによる相談支援
	年度別実績	1 教育相談延べ724件、適応指導教室「すなはま」通級数延べ869人、教師力・授業力・経営研修12回275人参加、ひびきセミナー6回168人参加、研修室利用延べ5,852人、体育館利用延べ22,361人 2 学校不適応対策専門委員会の開催ほか 3 スクールソーシャルワーカーによる相談支援 4 巡回訪問相談90件 児童生徒交流活動0回 保護者研修会1回14人 連絡協議会1回	1 教育相談延べ745件、適応指導教室「すなはま」通級数延べ1,482人、教師力・授業力・経営研修10回243人参加、ひびきセミナー3回77人参加、研修室利用延べ6,884人、体育館利用延べ24,733人 2 学校不適応対策専門委員会の開催ほか 3 スクールソーシャルワーカーによる相談支援	1 教育相談延べ486件、適応指導教室「すなはま」通級数延べ1,091人、教師力・授業力研修5回13人参加、ひびきセミナー5回81人参加、研修室利用延べ7,004人、体育館利用延べ27,017人 2 学校不適応対策専門委員会の開催ほか 3 スクールソーシャルワーカーによる相談支援	1 教育相談延べ475件、適応指導教室「すなはま」通級数延べ1,190人、教師力・授業力研修5回55人参加、ひびきセミナー3回78人参加、研修室利用延べ7,441人、体育館利用延べ26,239人 2 学校不適応対策専門委員会の開催ほか 3 スクールソーシャルワーカーによる相談支援	/

区分		決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
事業費	事業費(A+B)	59,940	60,012	60,355	19,469	19,790	
	直接経費 A	22,455	22,882	21,016	19,469	19,790	
	直接経費の財源内訳	国・県	3,662	1,812	1,669	26	
		地方債					
		その他	2,784	2,530	1,701	1,651	1,620
	一般財源	16,009	18,540	17,646	17,792	18,170	
人件費 B	37,485	37,130	39,339				
職員数の内訳	正規職員	5.00	5.00	5.40			
	嘱託職員	7.00	7.00	7.00			
	臨時職員	0.00	0.00	0.00			

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要</p> <p>(1) 県が対応してきた適応指導教室による児童生徒への支援を継続、充実するとともに、教育相談機能を位置づけ、不登校やいじめに対する相談活動を推進する。また、教職員の指導力向上を図るための研修を企画、実施するなど、市内の児童生徒、保護者、教職員にとって様々な支援を行う総合的、実践的な役割を果たす。</p> <p>(2) 学校不適應の専門家や地域協力員の活用により、学校不適應の解消に向けた取り組みを行う。</p> <p>(3) 学校教育課に社会福祉士等の資格を持つ人材をスクールソーシャルワーカーとして配置し、学校や関係諸機関との連絡調整や支援会議への参加、該当の児童生徒及び保護者に対するの相談や働きかけを行う。</p> <p>2 事業の成果</p> <p>(1) ①教育相談(475件) ②適応指導教室通級生(19名) ③研修企画(教職員向け13回、児童向け16回)</p> <p>(2) 学校不適應対策専門委員会開催3回 委員数15人 地域協力員の会開催2回 委員数60人</p> <p>(3) スクールソーシャルワーカーとして2名配置</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
活動指標	1	教育センター研修室利用延べ人数	人	目標	5,500	5,500	6,000	5,500	5,500	
				実績	5,852	6,884	7,004	7,441		
	(指標の説明) 教育センター研修室の利用状況									
	2	教育センター体育館利用延べ人数	人	目標	27,500	27,500	27,500	27,500	27,500	
				実績	22,361	24,733	27,017	26,239		
	(指標の説明) 教育センター体育館の利用状況									
	3	教育センター適応指導教室開室日数	日	目標	192	192	192	192	192	
				実績	190	196	196	198		
	(指標の説明) 教育センター適応指導教室の開室状況									
	4	学校不適応対策専門委員会の実施回数	回	目標	3	3	3	3	3	
				実績	3	3	4	3		
	(指標の説明)									
	5	スーパーバイザーによる助言指導回数	回	目標	18	18	17	17	17	
				実績	35	25	21	17		
	(指標の説明) 不適応対策専門委員がスーパーバイザーとして、学校・中学校区へ助言指導した回数									
	6	相談支援の件数	件	目標	15	20	20	25	25	
				実績	30	49	86	86		
	(指標の説明) 関係諸機関との連携及びケース会議の実施件数									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	教育センター研修室利用延べ人数	人	106%	125%	117%	135%	
	2	教育センター体育館利用延べ人数	人	81%	90%	98%	95%	
	3	教育センター適応指導教室開室日数	日	99%	102%	102%	103%	
	4	学校不適応対策専門委員会の実施回数	回	100%	100%	133%	100%	
	5	スーパーバイザーによる助言指導回数	回	194%	139%	123%	100%	
	6	相談支援の件数	件	200%	245%	430%	430%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	1 本市が抱えている教育課題である「学校不適応の解消」に向けて、教育センターの役割はとても重要であると認識している。 2 鳥取市の重点課題であり、15人の専門家で構成される鳥取市学校不適応対策専門委員会の方針決定により、各中学校区での未然防止、早期対応が行われている。 3 学校不適応の解消には学校と関係諸機関の円滑な連携が必須である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	1 「適応指導教室の運営」、「教育相談」、「教職員の研修企画」の3本を教育センターの重要業務として運営している。学校不適応児童生徒数も近年、減少傾向にあり、効果が現れていると思われる。 2 学校、専門機関、市教委が役割分担して不登校対策が推進されている。 3 教育と福祉の専門家が協力して事案にあたることで適切な関係機関との連携を迅速に行うことができる。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	1 鳥取市の教育課題に即した研修企画や教育支援を模索しながら小中学校児童生徒並びに教職員さらに保護者への対応もしており、効果的に資源投入されていると考えられる。 2 15人の専門委員がスーパーバイザーとして各校や中学校区での事案対応、教職員研修等にかかわっている。 3 学校からの相談に迅速に対応するとともに、月例報告に基づく学校訪問を実施している。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	1 体育館利用も含めて、学校関係者以外にも市民に施設利用提供されており、公平なサービスを心がけていると捉えている。 2 各校及び各中学校区不適応対策委員会には、地域協力委員が出席して、学校と連携を結びまた、15人の専門委員が事案に応じてアドバイスを行っている。 3 相談事案に加え、学校訪問も実施し、すべての児童生徒を対象としている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加
	<input type="checkbox"/> 2. 改善継続	<input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善	<input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合
	<input type="checkbox"/> 3. 現状維持		
	<input type="checkbox"/> 4. 縮小	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少
	<input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止	<input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	<p>1 学校不適応児童生徒の実態把握と支援について学校教育課と連携しながら個々の児童生徒の課題を把握し、個に応じた支援策を講じていく必要がある。また、近年、小学校低学年での不適応も増え、関係機関との連携が求められている。研修企画についても、特別支援教育の視点や学級づくりを意識した新たな企画が求められている。さらに小中学校のつながりを深めながら事業を企画する必要がある。そのためにも、本センターの質の充実を一層図る必要がある。</p> <p>2 学校不適応の解消は、市の重点課題であり、学校と地域、専門機関が連携して、学校不適応の解消にあたっている。今後、関係機関との早期連携、未然防止・早期対応のために情報共有の体制づくり等を充実・強化しながら、学校不適応の解消を進めていく必要がある。</p> <p>3 学校からの相談事案が年々増加している。不適応児童生徒の背景が複雑化してきている現状において、福祉と教育の専門性や経験を生かしたスクールソーシャルワーカーの働きは欠かすことのできない学校支援である。</p>		
今後の課題・方向性	<p>1 教育センターでは、特別の支援が必要となる可能性のある子ども及びその保護者に対し、関係機関と連携しながら、早期からの情報提供や相談会の実施を通して、総合的に支援し、保育園・幼稚園から中学校までの柔軟できめ細やかな対応ができる一貫した支援体制の充実を図る必要がある。研修企画では、特別支援教育の視点を取り入れた研修の企画や学びのつまづきを早期に解消する取り組み（鳥取大学の協力を得たひらがな読み支援）等を通して、学校不適応の未然防止と早期対応の一層の充実を図る必要があると考えている。</p> <p>2 小学校での問題行動の増加やインターネットや通信機器による新たな問題が発生するなど学校不適応対策の取組がより一層、期待されている。今後も、鳥取市不適応対策専門委員会による明確な方針のもと、各小中学校や中学校区において未然防止と早期対応のための継続的な事業の展開が必要であり、本事業の継続・拡充が必要であると考えている。</p> <p>3 不登校、問題行動等の問題は、学校だけで対応することが困難な事案も増えてきている。これらの解決のためには、関係機関との連携が必要であり、教育と福祉の両面から事例をとらえ専門的な知識や経験を持って早期対応にあたるスクールソーシャルワーカーの役割はさらに大きくなっており、今後も事業の積極的な拡充が必要であると考えている。</p>		

9. 学識経験者の所見

【評価結果】

評価コメント	学校不適応児童生徒の実態把握と、その対応は必要不可欠な事業と考える。しかしながら対応策を講じるだけでは根本的な解決にならない。学校不適応児童生徒を生み出す根本原因を解明し取り除く必要がある。これには市単位、県単位という小さな事業ではなく、多くの研究機関や国を巻き込んだ大がかりな事業が必要だと考える。
--------	--

【評価結果】

評価コメント	改善傾向に合った不適応児童生徒数が増加の気配を見せている。これまでの対応に問題があったということではなく、新たな不適応要因や問題行動が増加しているためとのことである。有効な対応策が見出され、再び改善がはかれることを期待したい。
--------	---

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	自立と創造の学校づくり推進事業	所属名 教育委員会事務局 学校教育課

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	市内全小・中学校
意図 (どのような状態にするために)	市立小中学校が児童生徒の実態、保護者の願いや期待、地域の特性などを踏まえ、自立し創意工夫ある学校づくりを進展させることにより、教育目標の達成を図る。
手段 (どうするのか)	学校が企画した教育活動及び取り組み内容に応じて、裁量の予算を拡充し、意欲や工夫・考え方を審査して予算配分する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

内容	年度別計画	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	年度別実績		全小中学校、5中学校区で実施する。	全小中学校、5中学校区で実施する。	全小中学校、5中学校区で実施する。	全小中学校で実施する。	全小中学校で実施する。
		小学校44校、中学校18校、4中学校区(東・湖南学園・福部・用瀬中学校区)で実施した。	小学校44校、中学校18校、3中学校区(東・湖南学園・福部中学校区)で実施した。	小学校44校、中学校18校(分校含む)、5中学校区で実施した。	小学校44校、中学校18校(分校含む)	/	
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	
	事業費(A+B)	22,237	21,683	21,374	21,527	19,362	
	直接経費 A	19,763	19,455	19,188	19,270	19,362	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他				12,308	
一般財源	19,763	19,455	19,188	6,962	19,362		
人件費 B	2,474	2,228	2,186	2,257			
職員数の内訳	正規職員	0.33	0.30	0.30	0.30		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要 地域に開かれた魅力ある学校づくりを実現するため、学校の創意工夫・自主的な取組に関して、各学校が企画立案したものを教育委員会が評価・査定をし、必要な予算を措置する。市は、鳥取市小学校教育研究会及び鳥取市中学校教育振興会に委託して事業を実施する。</p> <p>2 事業の成果</p> <p>① 一律支援予算による事業 従来より効果的に展開されてきた事業並びに日常の教育活動について、児童・生徒数に応じて自主的に学校が運営できる予算として配分した。</p> <p>② 特別支援予算による事業 特色ある学校づくりのために独自に企画立案した計画書をもとに成果が期待される事業に対して、評価・査定を行った上で予算配分した。</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	事業を実施した学校・中学校区数		目標	67	67	60	66	60
				実績	66	65	66	60	
	(指標の説明)								
	2		目標						
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	事業を実施した学校・中学校区数		99%	97%	110%	91%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	すべての小中学校に対して、特色ある学校づくりを行うことを支援していくことは、本市の目指す子ども像の実現に向けて必要不可欠である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	各学校が児童生徒の実態、保護者の願いや期待、地域の特性を踏まえ本事業に取り組むことは、魅力ある学校づくりに直接つながるものであり、大変有効である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	学校が作成した事前協議書をもとに、実施計画を審査し予算配分を行うことで、より目的を明確化した必要性のある事業展開となっている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	各学校の配分予算を、児童生徒数を基本とする一律支援予算と、各校のより特色のある取り組みを支援する特別支援予算で構成しており、公平性のある予算配分となるよう留意している。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	地域に開かれた魅力ある学校づくりを実現するため、学校の創意工夫・自主的な取り組みを進めていく必要がある。本事業を活用した魅力ある学校づくりに対しての地域の評価も高い。	
今後の課題・方向性	本事業により、創意ある教育活動が推進されており、児童・生徒の学力向上はもとより、それぞれの学校及び地域の実態に応じた魅力ある学校づくりが進んでいる。今後は、小中一貫教育推進プランを基盤とした中学校区の特色ある取組への支援拡充も含め、他事業との関連性を見直し、事業内容の再構築を図りながら一層充実させていきたい。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	それぞれの小中学校が特色ある取組を展開しており、個性的で魅力ある学校づくりという点で評価できる。校長の意向が取組内容に大きく影響するとのことで、あとは、校長が交代した後のそれぞれの小中学校の取組の継続性をどうするかを、それまでの取組を無駄にしないためにも考えて頂きたい。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	各校独自の事業について、事前・事後の評価が実施されており、全体として事業改善のプロセスは適切に機能していると評価できる。一方で、個々の学校の事業は数多くの目標と事業が混在しており、評価の妥当性には限界があるものと考えられる。また、学校長のリーダーシップが発揮される一方で学校としての取り組みの継続性が課題として指摘されており、両立に向けた取り組みが期待される。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	小学校外国語活動人材支援事業	所属名 教育委員会事務局 学校教育課

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	小学校
意図 (どのような状態にするために)	外国語活動におけるコミュニケーション能力の素地の育成を図る。
手段 (どうするのか)	小学校5・6年生の外国語活動の授業において、英語力のある地域人材を活用し、1学級あたり年間8時間分の指導援助を行う。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

内容		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
		年度別計画	人材派遣	人材派遣	各学校が、自主的に地域の人材を依頼したり、鳥取市教育センターの人材バンクから紹介したりして、5、6年生1クラスあたり8時間分の外国語活動授業において指導の援助を行う	各学校が、自主的に地域の人材を依頼したり、鳥取市教育センターの人材バンクから紹介したりして、5、6年生1クラスあたり8時間分の外国語活動授業において指導の援助を行う	各学校が、自主的に地域の人材を依頼したり、鳥取市教育センターの人材バンクから紹介したりして、5、6年生1クラスあたり8時間分の外国語活動授業において指導の援助を行う	
年度別実績		39校で945回派遣した	38校で975回派遣した	38校で1,015回派遣した	37校で885回派遣した	/		
事業費		区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	計画額(千円)	
		事業費(A+B)	3,881	3,930	3,995	3,717	2,484	
		直接経費 A	2,382	2,445	2,538	2,213	2,484	
		直接経費の財源内訳	国・県					
			地方債					
			その他					
一般財源	2,382	2,445	2,538	2,213	2,484			
人件費 B	1,499	1,485	1,457	1,504				
職員数の内訳		正規職員	0.20	0.20	0.20	0.20		
		嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
		臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要 小学校外国語活動のねらいであるコミュニケーション能力の素地の育成を図るために、外国語活動の授業を補助する地域人材を活用し、小学校の外国語活動の円滑な実施と充実した外国語活動の実践を行う。</p> <p>2 事業の成果 各学校が、自主的に地域の人材を依頼したり、鳥取市教育センターの人材バンクから紹介を受けたりして、5・6年生1クラスあたり、年間8時間分の外国語活動授業において指導の補助を行う。 37校 885回実施</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	派遣回数	回	目標	1064	1,144	1,088	1,112	1,656
				実績	945	975	1,015	885	
	(指標の説明) 小学校外国語活動への人材派遣回数								
	2		目標						
		実績							
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	派遣回数	回	89%	85%	93%	80%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	グローバル化に対応した英語教育が求められる中で、小学校5・6年生を対象に地域人材等を活用して外国語活動を展開することは子どもたちの英語を活用したコミュニケーション能力の素地を養うものと考えられる。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	年々、活用時間数も増加している。今後も学校現場から人材支援の要請が増えていくものと思われる。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	国の動静等から考えても、今後ますます英語教育の充実が求められる。本市の状況から考えると、行政が支援して地域人材を発掘し、学校現場に提供する仕組みは必要である。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	すべての学校を対象としている。希望した学校は40近くあり、今後も増加するものと思われる。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input checked="" type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	国の動向や小学校での外国語活動を中学校での外国語の学習に効果的につなぐためにも、地域の人材や留学生を活用した支援事業は効果的である。ネイティブスピーカーに触れることにより、外国語や外国に対する興味・関心を高め、中学校での学習をより意欲的なものにするに期待される。	
今後の課題・方向性	担任単独の授業に加えて、外国語に堪能な地域人材やネイティブスピーカーとふれ合うことは、児童が外国語を通してコミュニケーション能力の素地を養うために大変効果的である。また、必要に応じて、外国語活動支援員の研修を行い、小学校外国語活動の趣旨に沿った指導力の向上を図っていくことが必要である。	

9. 学識経験者の所見

【評価結果】

評価コメント	小学校での外国語活動は学習開始時期を早めることにより英語力を高められるメリットと同時に、英語の必要性の自覚が少ない状態で始めることにより英語嫌いを増やし、英語苦手意識を増すといったデメリットもある。支援する人材はネイティブや、英語が得意な人材と言うだけでは駄目で、英語を小学生に教えるためのメソッドを熟知している必要がある。きちんとした事前事後研修等によりこの点の対応をお願いしたい。
--------	--

【評価結果】

評価コメント	派遣回数でみた活動指標には現れていないが、本事業に関する指導協力者の教育能力向上に向けた取り組みが行われていることは事業全体の質的向上を図るものとして評価できる。活動量のみならず、こうした質的な側面への配慮が反映される評価となることを期待したい。
--------	---

自己点検・評価シート

平成26年度 第9次鳥取市総合計画

整理No.	1-(1)-②		
事務事業名	小規模校転入制度推進費	所属名	教育委員会事務局 学校教育課

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	中山間地域の小規模小学校
意図 (どのような状態にするために)	自然環境や小規模であることの特徴を活かし、特色ある学校づくりを積極的に進めている小規模小学校を支援するとともに、小規模小学校へ転入学することを希望する児童・保護者にその教育機会を提供する。
手段 (どうするのか)	小規模校転入制度推進委員会を開催し、実施学校間の情報交換を行うとともに、制度の周知を行う。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	従来の小規模校5校(神戸・東郷・明治・逢坂・瑞穂小)に加え、湖南学園小で実施する。	従来の小規模校6校(神戸・東郷・明治・逢坂・瑞穂・湖南学園小)に加え、西郷小で実施する。	小規模校7校(神戸・東郷・明治・逢坂・瑞穂・湖南学園・西郷小)で実施する。	小規模校7校(神戸・東郷・明治・逢坂・瑞穂・湖南学園・西郷小)で実施する。	小規模校8校(神戸・東郷・明治・逢坂・瑞穂・湖南学園・西郷小・佐治小)で実施する。	
	年度別実績	実施校6校(神戸・東郷・明治・逢坂・瑞穂・湖南学園小)、転入実績17名	実施校7校(神戸・東郷・明治・逢坂・瑞穂・湖南学園・西郷小)、転入実績25名	実施校7校(神戸・東郷・明治・逢坂・瑞穂・湖南学園・西郷小)、転入実績20名	実施校8校(神戸・東郷・明治・逢坂・瑞穂・湖南学園・西郷小・佐治小)、転入実績27名	/	
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	903	913	1,058	1,102	400	
	直接経費 A	153	170	329	350	400	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	153	170	329	350	400		
人件費 B	750	743	729	752			
職員数の内訳	正規職員	0.10	0.10	0.10	0.10		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要 中山間地域小規模校では、地域の特性を活かした特色ある教育が意欲的に進められ成果をあげている。校区を越えてこれら中山間地域小規模校への通学を認めることで、中山間地域小規模校に入学・転学することを希望する児童・保護者にその機会を提供する。</p> <p>2 事業の成果</p> <p>① 神戸小・東郷小・明治小・瑞穂小・逢坂小・湖南学園小・西郷小の8校が特認校として事業を実施。</p> <p>② 小規模校転入制度実施推進委員会を年3回実施し、特認校区の取組の情報交換、市民への制度の周知を実施。</p> <p>③ 市民・幼・保育園、学校等への情報提供及び特認校区での説明・啓発活動の実施。 制度利用者 27名(神戸小2名・東郷小11名・湖南学園小14名)</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	特認校として児童を募集した学校数	校	目標	6	7	7	7	8
				実績	6	7	7	8	
	(指標の説明) 小規模校特別転入制度の特認校として児童を募集する学校数								
	2			目標					
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	特認校として児童を募集した学校数	校	100%	100%	100%	114%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	本事業を核として、各特認校区の地域・保護者・学校が連携しながら中山間地域小規模校の特色ある学校づくりが推進されている。また、転入学を希望する児童・保護者にその機会を保障することにつながっている。
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 1. 有効である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	啓発活動等本事業に係る一連の取組を強化しているが、即転入学児童の増加につながっていない。また、転入学を希望する児童数の学校間格差が顕著になりつつある。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	啓発活動等本事業に係る一連の取組を強化しているが、即転入学児童の増加につながっていない。即効性を期待せず継続的な取組が必要である。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	各特認校の立地条件（中心市街地からの距離や公共交通機関の便）が大きな要因となり、転入学を希望する児童数の学校間格差が顕著になりつつある。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	小規模校転入制度実施推進委員会が中心となり、市民への制度の周知を継続的に行うことで、制度を活用して転入学をする児童が年々増加してきている。また、一連の取組を通して中山間地域小規模校の魅力ある学校づくりや地域の特色を発信する良い機会となっている。しかし、制度利用が一部の学校に限られており、啓発広報活動の工夫や、特色ある学校づくりの支援が必要である。	
今後の課題・方向性	中山間地域小規模校の特色ある学校づくりを支援すると共に、転入学を希望する児童・保護者にその機会を保障していくために制度を維持拡充していく必要があり、中学校への導入をめざしている。また、啓発広報活動の方法やそれに係る予算の確保が必要である。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	この事業を積極的に活用してもらうためには、こどもを転校させる時の判断材料として本事業の内容だけでなく、それぞれの特認校の特徴なども多くの保護者に周知しておくことが必要である。また、転校させることができるかどうかの基準などがあれば、それについてもきちんと保護者に情報公開しておく必要がある。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	本事業は転入制度を利用する機会を設けることが目的であるため、募集学校数や説明会の開催回数などが指標とされることは妥当である。本制度の存在が広く知られるよう、対象となる保護者の認知度を上げる取り組みが期待される。
--------	---

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	姫路市・郡山市小中学生交流事業	所属名 教育委員会事務局 学校教育課

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	1 姫路市・鳥取市の中学生 2 郡山市・鳥取市の小学生
意図 (どのような状態にするために)	親睦や情報交換を深め、姉妹都市交流の継続発展と、両市の相互理解や友好を促進する。
手段 (どうするのか)	1 姫路市との中学生交流事業 両市の中学生が交互に訪問し、合宿生活等を通じて交流する。事業は鳥取市中学校長会に委託して実施する。 2 郡山市との小学生交流事業 両市の小学生が交互に訪問し、自然体験活動等を行う。事業は鳥取市小学校長会に委託して実施する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	[姫路市]姫路市へ中学生を派遣し、交流を行う。 [郡山市]小学生22名、引率者6名が、郡山市を訪問し、2泊3日の交流を行う。	[姫路市]姫路市の中学生を受入れ、交流を行う。 [郡山市]小学生22名、引率者6名が郡山市を訪問し、2泊3日の交流を行う。	[姫路市] 姫路市へ中学生35名、引率者8名を派遣し、交流を行う。 [郡山市] 郡山市の小学生が、本市を訪問し、本市小学生15名、指導者9名が迎え2泊3日の交流を行う。	[姫路市] 姫路市の中学生を受入れ、交流を行う。 [郡山市] 小学生22名、引率者6名が郡山市を訪問し、2泊3日の交流を行う。	[姫路市] 姫路市へ中学生35名、引率者8名を派遣し、交流を行う。 [郡山市] 郡山市の小学生、引率者が、本市を訪問し、2泊3日の交流を行う。	
	年度別実績	[姫路市]姫路市へ中学生35名を派遣。 [郡山市]東日本大震災により、派遣は中止。全小学校が郡山市全小学校に応援メッセージを作成して送った。	[姫路市]姫路市の中学生35名を受入れ、交流を行った。 [郡山市]小学生22名が郡山市を訪問し、2泊3日の交流を行った。	[姫路市] 姫路市へ中学生35名、引率者8名を派遣し、交流を行った。 [郡山市] 郡山市の小学生が、本市を訪問。本市小学生15名、指導者9名が迎え2泊3日の交流を行った。	[姫路市]姫路市の中学生35名を受入れ、交流を行った。 [郡山市]小学生22名が郡山市を訪問し、2泊3日の交流を行った。	/	
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	
	事業費(A+B)	4,322	6,482	4,873	6,578	2,242	
	直接経費 A	1,323	3,512	1,959	3,569	2,242	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	1,323	3,512	1,959	3,569	2,242		
人件費 B	2,999	2,970	2,914	3,009			
職員数の内訳	正規職員	0.40	0.40	0.40	0.40		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要</p> <p>(1) 姫路市中学生交流事業 鳥取市中学校長会に委託し、両市の中学生が交互に訪問し、合宿生活等を通じて交流を深める。派遣と受入を1年交代で実施している。</p> <p>(2) 郡山市小学生交流事業 郡山市との交流を深めるため、両市の小学生を隔年で双方の市に派遣し、両市の特色を生かした交流を行う。両市の小学生が体験活動や宿泊等で交流活動を行う。</p> <p>2 事業の成果</p> <p>(1) 姫路市中学生交流事業 市内17校から35名の生徒が参加し、姫路市生徒を迎えて両市生徒が自然体験活動や歴史、文化理解等を通して絆を深め、姉妹都市としての結びつきを強めるきっかけとした。</p> <p>(2) 郡山市小学生交流事業 市内14校から22名の生徒と、指導員6名が郡山市を訪問し、事業を実施した。</p>
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	交流実施学校数(姫路市との中学生交流)	校	目標	18	18	17	17	17
				実績	18	18	17	17	
	(指標の説明) 姫路市との中学生交流に生徒を派遣する中学校数								
	2	交流実施学校数(郡山市との小学生交流)	校	目標	14	15	15	15	15
実績				14	15	15	14		
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	交流実施学校数(姫路市との中学生交流)	校	100%	100%	100%	100%	
	2	交流実施学校数(郡山市との小学生交流)	校	100%	100%	100%	93%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	姉妹都市間の継続した交流と両市教育の発展のため妥当と考える。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	姉妹都市の人との交流や文化にふれることで様々な刺激を受けるとともに、ふるさと鳥取の良さを再認識することにもつながっている。 さらに、代表児童生徒がその経験を各校に持ち帰ることで、姉妹都市への理解やふるさと鳥取を想う心を広く培うことができる。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	鳥取市中学校長会、鳥取市小学校長会に委託し事業実施することで、交流事業の成果等を市内全校に広めることができる。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	中学校については全校対象に、小学校は3グループに分けて隔年で受入・派遣を行っている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	姫路市との交流については、44回の長い歴史を持った本交流事業は、両市の文化交流、中学生の健全育成に有効である。 郡山市との交流については、相互に訪問しての交流事業を継続し、姉妹都市としての絆を一層深めていく必要がある。	
今後の課題・方向性	(姫路市) 今後も両市の交流、生徒の成長のために有効な事業であり、継続していく必要があると考えている。 (郡山市) 郡山市と鳥取市の小学生が隔年で双方の市を訪問し、自然体験活動等を行う。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	鳥取市の児童生徒が県外市の児童生徒と交流すること自体は良いことである。そういう意味づけが大人目線になっていないか。児童生徒にとって、どんな効果を生んでいるのか。参加児童生徒にレポートを書かせて報告書に類するものを作っているようであるが、報告書を作っただけにならないように、それを事業の改善に活用するなどの工夫は必要である。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	交流を継続することに意義が求められる性格の事業と思われる。短期的な事業効果の評価が困難ではあるが、長期にわたり継続してきた事業であり、これまで実施してきた事業全体についての評価の可能性が検討されることを期待したい。
--------	---

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	地域で学ぶ職場体験活動事業	所属名 教育委員会事務局 学校教育課

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	中学校生徒
意図 (どのような状態にするために)	様々な社会体験活動を行う中で地域社会に学び、地域の人々と共に生きる心や感謝の心を育み、「生きる力」の基礎となる豊かな人間性や自ら課題を見つけ解決していこうとする意欲、態度を身につける。
手段 (どうするのか)	中学校2年生全員が数名ずつのグループに分かれ、地域の事業所や施設等で職場体験活動を行う。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

内容		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		年度別計画	職場体験活動	職場体験活動	職場体験活動	職場体験活動
年度別実績	市内全18中学校で実施 第2学年生徒 1,713名参加	市内全18中学校で実施 第2学年生徒 1,584名参加	市内全17中学校で実施 第2学年生徒 1,663名参加	市内全17中学校で実施 第2学年生徒 1,725名参加	/	
事業費		決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)
区分		3,872	3,747	3,793	2,722	1,923
事業費(A+B)		3,872	3,747	3,793	2,722	1,923
直接経費 A		3,122	3,004	3,064	1,970	1,923
直接経費の財源内訳	国・県					
	地方債					
	その他					
	一般財源	3,122	3,004	3,064	1,970	1,923
人件費 B		750	743	729	752	
職員数の内訳	正規職員	0.10	0.10	0.10	0.10	
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00	

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要 事業は、「鳥取市ワクワクとっとり推進協議会」に委託して実施し、市内中学校2年生全員が数名ずつのグループに分かれ、中学校区を中心に地域の事業所や施設等で連続する3～5日間の職場体験活動を行う。</p> <p>2 事業の成果 各中学校区では、「中学校区推進協議会」を中心に事業を実施しており、学校・地域・保護者の協働が進んでいる。生徒は、事業を通して働くことの意義や喜び、あいさつや言葉遣い等の社会人としてのマナーの大切さに改めて気付く機会となっている。</p>
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
活動指標	1	受け入れ事業所数(延数)	箇所	目標	652	654	660	665	659	
				実績	646	636	647	667		
	(指標の説明) 体験活動を行う生徒の受け入れを行った事業所の延数									
	2	生徒アンケートにおける肯定的な回答率	目標			80	80	80		
実績					85	95				
(指標の説明) 体験活動後の生徒アンケートにおける肯定的な回答率										

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	受け入れ事業所数(延数)	箇所	99%	97%	98%	100%	
	2	生徒アンケートにおける肯定的な回答率				106%	119%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	職業観・勤労観を養うことを目的としてキャリア教育に位置付けられた事業であり、中学2年生も時期的に適切である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	事業実施の後のアンケート調査で、生徒・保護者・事業所からもその意義について高い評価となっている。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	ワクワクとっとり推進協議会へ委託しており、地域との協働により進められている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	対象の中学2年生は適切である。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	キャリア教育の中で中核をなす事業であり、「生きる力」を身につけ、しっかりとした職業観・勤労観の育成に役立っている。地域で生徒を育むという意識の高揚を図り、鳥取市教育ビジョンめざす子ども像「ふるさとを思い、志をもつ子」の育成につながる有効な事業であり、継続・拡充を望む。	
今後の課題・方向性	新学習指導要領の中でキャリア教育の重要性は高まっており、本事業の意義は大きい。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	本事業は、生徒に職業観や勤労観を育成するためと言うより、生徒が親や先生以外の地域の知らない大人と関係を持つことで狭い世界しか知らない生徒が人間的に成長するために必要かつ重要な教育的事業と位置づけられる。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	事業の活動量のみで評価するのではなく、参加生徒の所見を得る努力がなされ、それに基づいた評価と改善に向けた取り組みが実施されており評価できる。また、各校間での情報交換の場が設けられていることが、改善のプロセスに有効に作用しているものと思われる。
--------	---

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	学校給食調理委託事業	所属名 教育委員会事務局 学校保健給食課

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	学校給食調理等業務
意図 (どのような状態にするために)	安全を確保しながら効率的に実施
手段 (どうするのか)	プロポーザル審査により優秀な民間事業者へ委託

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	[プロポーザル] 9 学校給食センター	[プロポーザル] 9 学校給食センター	[プロポーザル] 8 学校給食センター (1センター統廃合)	[プロポーザル] 8 学校給食センター	[プロポーザル] 8 学校給食センター	
	年度別実績	[プロポーザル] 9 学校給食センター	[プロポーザル] 9 学校給食センター	[プロポーザル] 8 学校給食センター	[プロポーザル] 8 学校給食センター		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	402,280	405,654	407,191	420,788	407,191	
	直接経費 A	400,087	403,404	405,005	418,531	422,246	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他				2,354	3,532
一般財源	400,087	403,404	405,005	416,177	418,714		
人件費 B	2,193	2,250	2,186	2,257			
職員数の内訳	正規職員	0.30	0.30	0.30	0.30		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	1 事業の概要	学校給食センターの調理業務を、業者委託により、継続的かつ安定的に実施する。
	2 事業の成果	<p>青翔開智中及び県立盲ろう学校へ給食の提供を開始したことにより、調理委託料が増額となった。</p> <p>①物資調達業務 (公財) 鳥取市学校給食会 【随意契約】</p> <p>②湖東学校給食センター (株)メフォス 【債務負担行為: H26~30】</p> <p>③国府学校給食センター (株)メフォス 【債務負担行為: H26~30】</p> <p>④第二学校給食センター 東洋食品(株) 【債務負担行為: H22~26】</p> <p>⑤気高・鹿野・青谷学校給食センター (公財) 鳥取市学校給食会 【債務負担行為: H22~26】</p> <p>⑥第一学校給食センター (公財) 鳥取市学校給食会 【債務負担行為: H23~27】</p> <p>⑦河原学校給食センター (公財) 鳥取市学校給食会 【債務負担行為: H23~27】</p>

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	調理業務委託実施数		目標	9	9	8	8	8
				実績	9	9	8	8	
	(指標の説明)								
	2			目標					
			実績						
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	調理業務委託実施数		100%	100%	100%	100%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	効率的で継続的かつ安定した給食を提供できる。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	民間業者に委託することにより、民間業者の優れた部分が取り入れられる。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	民間委託することにより、給食の充実と経費削減効果が得られた。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	プロポーザル審査により、優秀な民間業者に調理委託することにより、よりよい給食の提供に資する。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	常に安全・安心な学校給食の提供を心がけ、民間業者の業務実施状況を検証しつつ、継続的に実施する。	
今後の課題・方向性	現在の外部委託において、委託期間が終了するところがあり、業務実施状況等を検証しつつ、次の業務委託に備える。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	民間企業の長所を活用するためにも必要な事業である。外部委託する際の委託基準を明確にして、より安全・安心な学校給食の供給を目指してほしい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	委託事業を委託件数で評価することは適切とは考えにくい。委託に伴って業務の質の改善や費用の削減が図られているかが把握されるべきであろうが、定量的に捉えることができると思われるにも関わらず、それらは明示的に示されてはいない。それらの側面への注意は引き続き十分に払われていると認識されるが、継続的な改善には量的な指標を活用することが有用である。
--------	---

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	学校給食費未納対策事業	所属名 教育委員会事務局 学校保健給食課

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	学校給食費未納者
意図 (どのような状態にするために)	未納者の解消と学校給食会計の適切な運営
手段 (どうするのか)	補助金交付による各給食センターの円滑運営 主に支払督促申立て・差押命令申立て等法的措置等

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	継続分を含めた法的措置 10件					
	年度別実績	新たな法的措置 なし	新たな法的措置 3件	新たな法的措置 2件	新たな法的措置 なし	/	
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	4,043	3,899	3,239	3,194	3,239	
	直接経費 A	2,581	2,399	2,510	2,442	606	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他	923	1,370	889	685	500
一般財源	1,658	1,029	1,621	1,757	106		
人件費 B	1,462	1,500	729	752			
職員数の内訳	正規職員	0.20	0.20	0.10	0.10		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要 教育委員会及び学校による段階的な未納対策を行っても徴収できない、学校給食費未納金の生じた学校給食センター運営委員会に、未納補てん補助金を補助することにより、本市及び各学校における学校給食会計の円滑な運営を図る。</p> <p>2 事業の成果 平成25年度分に学校給食費未納金の生じた学校給食センター運営委員会に対して、未納補てん補助金を交付した。前年度交付した補助金と比較して増額となった。 督促文書及び家庭訪問等による未納対策を行った。 児童手当からの学校給食費引去額は、前年度より増加した。</p>
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	学校給食費の納付率	百分率	目標	99.55	99.6	99.65	99.65	99.65
				実績	99.55	99.52	99.59	99.58	
	(指標の説明)								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	学校給食費の納付率	百分率	100.0%	99.9%	99.9%	99.9%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	学校給食会計の円滑な運営のため未納対策は必要である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	学校給食会計の円滑な運営のため未納対策は必要である。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	どうしても徴収できない未納金のため補てん補助金を交付している。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	保護者負担の観点から公平性は求められている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	学校給食費未納額及び未納者を増加させないため、法的措置を含めた対策等、効果的な実施方法を検証しながら継続的に実施する。	
今後の課題・方向性	法的措置を視野に入れつつ、学校及び他の徴収業務とも連携を図りながら、効果的な実施方法を検証する。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	学校給食会計の適切な運用のために必要な事業である。学校給食費未納者をなくすためには、法的措置などの強硬手段も一つの方法であるが、未納者が出てくるおおもとの原因を明らかにして、それを取り除くことが理想的な解決法である。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	未払いに対する事後的な対応である本事業は必要であるが、未払いの予防に向けた施策も重要と思われる。児童手当からの引去の有効性は高いと思われるが、保護者の同意が必要ということもあり、理解を広める取り組みが期待される。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	子育て講座開設事業	所属名 教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ課

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	幼児の保護者及び次年度小学校に入学する幼児の全保護者
意図 (どのような状態にするために)	子どもたちの健全育成にとって家庭と学校の連携が重要であることを保護者に理解していただき、家庭の教育力向上を図る。
手段 (どうするのか)	就学前の機会を捉え、基本的な生活習慣、生活能力、豊かな生活情操、他人への思いやり、善悪の判断など基本的倫理観、社会マナー、自制心や自立心など「生きる力」の基礎的な資質や能力を育成する上で必要な事項を取り上げた「子育て親育ち講座」を開催する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	「子育て親育ち講座」の開催 小学校 45校 幼保園 4園	「子育て親育ち講座」の開催 小学校 44校 幼保園 6園	「子育て親育ち講座」の開催 小学校 44校 幼保園 5園	「子育て親育ち講座」の開催 小学校 44校 幼保園 7園	「子育て親育ち講座」の開催 小学校 44校 幼保園 6園	
	年度別実績	「子育て親育ち講座」の開催 小学校 45校 幼保園 4園	「子育て親育ち講座」の開催 小学校 44校 幼保園 6園	「子育て親育ち講座」の開催 小学校 44校 幼保園 5園	「子育て親育ち講座」の開催 小学校 44校 幼保園 7園		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	7,725	7,577	7,372	7,191	2,376	
	直接経費 A	2,608	2,327	2,122	1,941	2,376	
	直接経費の財源内訳	国・県	1,738	1,535	1,397	1,290	1,584
		地方債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
	一般財源	870	792	725	651	792	
人件費 B	5,117	5,250	5,250	5,250			
職員数の内訳	正規職員	0.70	0.70	0.70	0.70		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要 国の補助事業「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動推進促進事業」を受けて実施する。 (補助率：国 1/3 県 1/3 市 1/3) 市内の小学校・幼保園等での「子育て・親育ち講座」を家庭教育支援チームが企画・調整し開設する。 ・新小学1年生のための子育て・親育ち講座(就学時検診等を活用した子育て・親育ち講座) ・幼児期子育て・親育ち講座 (講座内容) 基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人への思いやり、善悪の判断など基本的倫理観、社会的マナー、自制心や自立心など「生きる力」の基礎的な資質や能力を育成する上で必要な事項を取り上げて、保護者の家庭での教育力向上を図る。</p> <p>2 事業の成果 家庭教育に関する学習機会を提供することにより、家庭の教育力の向上を図る。</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	子育て親育ち講座の開催回数	回	目標	49	50	49	51	50
				実績	49	50	49	51	
	(指標の説明)								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	子育て親育ち講座の開催回数	回	100%	100%	100%	100%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	共通のテーマで講座を開催することができる。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	家庭教育に関する学習機会を提供することにより家庭の教育力の向上を図る。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	就学時健診・入学説明会または保護者会に合わせて講座を行っているので、効率的であると考えます。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	市内全小学校で実施している。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	他の地域の成功例等の情報を参考にしながら、今後も基礎的な資質や能力を育成するうえで必要な事項を取り上げ、保護者の家庭での教育力の向上を図る。	
今後の課題・方向性	より内容を充実したものになるよう見直ししながら、今後も基礎的な資質や能力を育成するうえで必要な事項を取り上げ、保護者の家庭での教育力の向上を図る。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	教育は教育機関だけが行うのではなく、家庭や地域によるしつけをはじめとする教育が大事である。特に長じてからの生活習慣、倫理観、自己をコントロールする力などは小さいとき過ごした家庭環境に負うところが大きい。そういった意味から、本事業は重要な事業と考えるが、うまくPDCAを回しながら改善に努めてほしい。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	事業の対象者との接触率は高いものの、接触回数は必ずしも多くはないため、大きな効果が期待できる事業とは考えにくい。事業の実施回数で評価されているが、限られた場を有効に活かすために参加した保護者からのフィードバックを反映させるといった取り組みを期待したい。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	1-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	子どものこころづくり支援「夢の教室」事業	所属名 教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ課

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	01	次代を築き担う、たくましい子どもを育む
	施策	1102	教育の充実

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	小学校5年生、中学校2年生
意図 (どのような状態にするために)	夢を持つことの大切さ、仲間と協力することの大切さを子どもたちに伝え、子どもたちの健全育成を図る。
手段 (どうするのか)	スポーツや文化、芸術の分野で日本のトップレベルを極めた著名人等を「夢先生」として小・中学校に派遣して、実技と講座による「夢の教室」を開催する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
		5校での実施	5校での実施	5校での実施	5校での実施	5校での実施	
内容	年度別計画						
	年度別実績	7校で実施	7校で実施	7校で実施	小学校5校、中学校2校で実施。	/	
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	1,954	1,947	1,933	2,107	1,700	
	直接経費 A	1,204	1,204	1,204	1,355	1,700	
	直接経費の財源内訳	国・県	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,204	1,204	1,204	1,355	1,700	
人件費 B	750	743	729	752			
職員数の内訳	正規職員	0.10	0.10	0.10	0.10		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1. 事業の概要 スポーツや文化、芸術の分野で日本のトップレベルを極めた著名人等を「夢先生」として迎え、小学5年生と中学2年生を対象に「夢の教室」を実施。 ・前半「ゲームの時間」では、体育館で体を動かしながら「目的のために協力すること」「相手を思いやる場所」の大切さに気付いてもらう。 ・後半「トークの時間」では、教室で「夢先生」の体験談をもとに夢について語りかけ、目標に向かって努力することの大切さを教えるほか、子どもたちに自分の夢について考えてもらう。</p> <p>2. 事業の成果 小学5年生と中学2年生を対象に「夢の教室」を実施。仲間と協力することや目標を持って行動することの大切さを学ぶ貴重な事業で、希望校も年々増加している。</p> <p>3. 事業の実績 7校、12クラスで実施</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	子どものこころづくり実施学校数	校	目標	5	5	5	5	5
				実績	7	7	7	7	7
	(指標の説明)								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	子どものこころづくり実施学校数	校	140%	140%	140%	140%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	子ども達が夢や目標を持ちにくくなった現代において、夢の大切さや努力をすることの大切さを伝える取り組みは重要である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	開催希望校が増加傾向にあり、子ども達や先生にも事業意義が浸透し、夢先生との交流も深まるなど事業効果が顕著である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	夢先生やアシスタントの交通費と謝礼のみで事業展開しており、少額の経費で国内トップレベルの人材の登用が実現している。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	開催希望校からの申請書を審査し、事業目的の理解度や今後の授業に発展的に取り組もうとする意欲的な学校で開催している。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	子ども達が夢の大切さや仲間と協力することの大切さを学ぶ有意義な事業である。平成26年度より中学2年生も対象となり、今後継続的に事業の拡大を図りながら実施する。	
今後の課題・方向性	平成26年度から小学校に加え中学校でも事業を実施しており、加えて1回あたりの講師料が2万円増額となったことから、予算の増額を図る必要がある。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	子どもたちの夢を育むための価値ある事業と考える。テレビ等で知っている講師による授業は子どもたちにとって今後の成長のための良い刺激となる。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	イベント的な事業であり、期待されている効果については限界がある。とはいえ、派遣元の支援により貴重な機会が安価で実現できており、費用対効果は高いものと思われる。中学生が対象に加わったことにより、小学生とは異なる効果が得られることが期待される。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	1-(2)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備事業	所属名 教育委員会事務局 文化財課

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	02	文化・芸術に親しみ、楽しむ
	施策	1202	文化財の保存・活用

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	史跡鳥取城跡附太閤ヶ平
意図 (どのような状態にするために)	1 文化財として良好な状態で保存・活用し、地域資源としての価値を高める。 2 市民の史跡への理解を深め、利活用の推進と全国への情報発信を図る。
手段 (どうするのか)	1 「保存整備基本計画」に基づき、史跡鳥取城跡の建造物の復元や石垣の修理、環境整備などを行う。 2 「鳥取城フォーラム」や見学会、展覧会等を実施し、情報発信と利活用の推進に努める。 史跡全体の調査研究、利活用を推進する。復元整備のために必要な調査研究、基本設計業務を実施する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		内容	年度別計画 1 大手登城路擬宝珠橋跡発掘調査・楯蔵跡の環境整備工事 2 鳥取城フォーラムの開催・見学会の実施・見学路の実験的整備・調査研究事業の実施	1 石垣修復工事・整備に係る発掘調査 2 中ノ御門跡復元整備基本設計・鳥取城フォーラム・見学会の実施・見学路の整備・調査研究事業の実施	1 石垣カルテに基づく必要な箇所の修理工事・整備に係る発掘調査・大手登城路復元整備に係る基本設計 2 中ノ御門跡復元整備基本設計・鳥取城フォーラム・見学会の実施・見学路の整備・調査研究事業の実施	1 石垣カルテに基づく必要な箇所の修理工事・整備に係る発掘調査・大手登城路復元整備に係る基本設計 2 鳥取城フォーラム、見学会の実施・見学路の整備・調査研究事業の実施
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)
	事業費(A+B)	111,238	72,510	95,236	123,305	138,522
	直接経費 A	94,738	53,945	71,923	123,305	114,452
	直接経費の財源内訳					
	国・県	62,311	35,136	47,571	89,829	74,481
	地方債	0	0	0	0	7,100
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	32,427	18,909	24,352	44,140	71,283
	人件費 B	16,500	18,565	23,318	24,070	24,070
職員数の内訳	正規職員	2.20	2.50	3.20	3.20	
	嘱託職員					
	臨時職員					

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	1 事業の概要 (1) 鳥取城跡附太閤ヶ平は、昭和32年に国指定文化財になって以後、年次計画で保存修理を実施してきた。保存修理事業は、昭和18年の鳥取大震災等による城郭遺構の損傷部を中心に実施している。また、「史跡鳥取城跡保存整備実施計画」（平成18年度策定）に基づき、大手登城路の復元整備に取り組んでおり、復元の資料を得るための調査等を実施している。 (2) 平成17年度に「史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備基本計画」、18年度に「鳥取城跡保存整備実施計画」を策定し、長期計画に基づく史跡鳥取城跡の保存整備の促進と史跡の活用を図っている。鳥取城跡の史跡としての保存と活用を推進し、地域の核となる文化財としての価値を高め、文化財愛護意識の醸成を図り、地域文化の振興と周辺地域の活性化を目指す。 2 事業の成果 (1) ○大手登城路復元に係る発掘調査、記録作成 ○天球丸跡腰石垣修復工事 ○大手登城路復元整備基本設計の実施 (2) ○検討委員会の開催 ○鳥取城フォーラムの開催（全国山城サミットと共催） ○発掘調査・石垣修理工事の現地説明会の開催 ○32万石お城まつり、仁風閣等でのパネル展示 ○史跡の現地説明会の開催 ○新パンフレットの刊行
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	楯蔵跡(天球丸巻石垣前広場)環境整備事業の進捗率	%	目標	80	100	-	-	-
				実績	80	100	-	-	-
	(指標の説明)								
	2	鳥取城フォーラム等イベント実施数	回	目標	3	3	2	2	3
実績				5	3	5	3	-	
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	楯蔵跡(天球丸巻石垣前広場)環境整備事業の進捗率	%	100%	100%	-	-	-
	2	鳥取城フォーラム等イベント実施数	回	167%	100%	250%	150%	-

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	1 国史跡であり、管理団体として保存活用に努める必要がある。また、都市核として「市民の心のよりどころ」である。 2 管理団体として積極的に活用に必要ながあり、市民の期待も強い。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	1 鳥取城跡の保存活用の推進は、中心市街地の活性化に資するとともに、史跡内にある久松公園、重要文化財仁風閣等の活用にもつながる。 2 鳥取城フォーラム、現地説明会は常に一定以上の参加者を得ているが、より広範な市民、国民に情報発信するため、観光事業者や県等の関係機関との協調を一層図る必要がある。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	1 指定文化財として慎重な取り扱いが必要であり、さらに既存の県有施設との調整等が不可欠である。 2 観光協会等との協力関係により、効率的に事業実施ができていますが、さらなる広範な協力が必要である。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	1 無料で利用でき、文化財に関心のある市民だけでなく、市街地に残る豊かな自然環境、また都市公園として広く利用することができる。 2 城郭遺跡として各種書籍に掲載頻度も著しく向上し、観光客も増加する方向にあるが、今後さらなる事業の進捗が求められる。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加
	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善	<input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合
	<input type="checkbox"/> 3. 現状維持		
	<input type="checkbox"/> 4. 縮小	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少
	<input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止	<input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	1 関係機関との調整を進め、保存整備基本計画に沿った事業を着実に進める。平成35年頃を目途に、大手登城路全体の復元整備・環境整備を進める。 2 復元整備事業の進捗にあわせ、内容・手法等を見直しつつ継続的に活用・広報普及に取り組んでいく。		
今後の課題・方向性	1 鳥取城跡の復元整備・環境整備は市民からの要望も強く、今後も文化財としての保存活用を図る。また、劣化し、崩落の恐れのある石垣等も複数箇所確認されており、今後も確実に石垣等の保存修理事業を進める。 2 鳥取城跡の修理・整備工事の進捗にあわせ、内容・手法等を見直しつつ広報・教育普及事業に継続的に取り組んでいく。 3 大手登城路の復元完成を目途に、保存整備基本計画の見直しを行い、事業を精査する。		

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	鳥取城跡をきちんと整備保存し将来の市民に残す本事業は、現在の鳥取市や鳥取市民にとって義務といえる事業である。きちんと計画通りに事業を進めるとともに、復元等が完成したあかつきには観光資源としての活用をお願いしたい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	長期的な計画に沿って事業が進められており、単年度の評価には限界がある。鳥取城の文化財としての価値や本事業の意義について定期的に市民に発信し、理解を得るよう努めており評価できる。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	1-(2)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	史跡等保護・整備事業（青谷上寺地遺跡）	所属名 教育委員会事務局 文化財課

1. 基本情報

位置づけの 総合計画の	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	02	文化・芸術に親しみ、楽しむ
	施策	1202	文化財の保存・活用

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	史跡青谷上寺地遺跡
意図 (どのような状態にするために)	史跡青谷上寺地遺跡は現在、約14万5,553㎡の広さがあり、範囲内には市有地、県有地及び私有地が混在しており、史跡内の私有地について県が公有化を進めている。また、平成22年3月には県と共同で「国史跡青谷上寺地遺跡 保存管理計画及び整備活用基本計画」を策定し、将来的な復元建物等の整備を構想しているが、それまでの間は、環境保持と情報発信を進める。
手段 (どうするのか)	史跡地内の市有地及び県有地についてはそれぞれが除草・水路管理等を実施するものとし、史跡青谷上寺地遺跡等の情報発信及び体験事業については、県、市及び関係団体で組織する青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会で連携して活動を行い、全国的な知名度アップと来訪者数の増加を目指すものとする。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	史跡地内の維持管理	史跡地内の維持管理 史跡保存活用協議会の開催・事業実施	史跡地内の維持管理 史跡保存活用協議会の開催・事業実施	史跡地内の維持管理 史跡保存活用協議会の開催・事業実施	史跡地内の維持管理 史跡保存活用協議会の開催・事業実施	
	年度別実績	史跡地内の維持管理 史跡保存活用協議会の開催・事業実施	史跡地内の維持管理 史跡保存活用協議会の開催・事業実施	史跡地内の維持管理 史跡保存活用協議会の開催・事業実施	史跡地内の維持管理 史跡保存活用協議会の開催・事業実施		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	4,293	4,180	6,124	5,827	6,273	
	直接経費 A	1,294	1,210	3,210	2,818	3,264	
	直接経費の財源内訳	国・県	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,294	1,210	3,210	3,264	3,264	
人件費 B	2,999	2,970	2,914	3,009	3,009		
職員数の内訳	正規職員	0.40	0.40	0.40	0.40		
	嘱託職員	0.00					
	臨時職員	0.00					

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要</p> <p>青谷上寺地遺跡は「地下の弥生の博物館」と称される、弥生時代の多種多様な遺物が大量に出土した弥生時代の貴重な遺跡であり、平成20年3月に国史跡に指定された。また、平成22年8月、23年9月、25年10月に追加指定を受けた。遺跡範囲内の公有化により青谷上寺地遺跡公園とし、遺跡保護と景観の管理を行った。また、史跡の保存活用事業の推進のため、鳥取県・鳥取市・関係団体等で組織する「青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会」により、地域及び青谷上寺地遺跡展示館等と連携し遺跡を活用した取り組みを行った。</p> <p>2 事業の成果</p> <p>青谷上寺地遺跡公園及び道路、水路周辺などの除草作業を実施し、周辺の水田・住宅等に影響を及ぼさないよう、遺跡の保護と景観の保全管理を行った。また、青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会で、古代米栽培体験・田んぼアート・キャラクター募集等の発信事業を行った。</p>
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	史跡内の草刈等の環境整備実施回数 (指標の説明)	回	目標	4	4	4	4	4
				実績	3	4	4	4	
	2	(指標の説明)		目標					
				実績					

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	史跡内の草刈等の環境整備実施回数	回	75%	100%	100%	100%	
	2	(指標の説明)						

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	国史跡青谷上寺地遺跡の保存・保護のための維持管理及び青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会による地域活性化事業を行った。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	史跡内の市有地についての除草作業を5月、7月、9月及び3月の4回行い、周辺民家や田への悪影響を防止することができた。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	除草等作業を地元業者に委託して、効果的かつ効率的な維持管理を行うことができた。また、協議会事務局は県と共同して運営しており、県内外への発信が図れた。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	史跡内の市有地については、主にイベント広場・体験広場として活用できる史跡整備が構想されている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
	担当課等の評価コメント	将来的には史跡青谷上寺地遺跡の史跡公園化を目指し、鳥取県と共同して史跡地内の環境保持と公有化を進めるとともに、青谷上寺地遺跡の知名度アップを目指し、青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会で古代米栽培や田んぼアート等を実施している。これらの活動は、年々充実してきている。
今後の課題・方向性	当面は現状の環境整備・維持管理に努め、史跡の整備・保存・活用の実施設計に向けて検討する。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	青谷上寺地遺跡は日本を代表する弥生時代の遺跡である。本事業では除草が主で、利活用がそれほど進んではないのが実情である。史跡の速やかな公有化を望む。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	長期的な計画に基づいて実施されている事業であり、現在は除草等の維持・管理が中心となっている。活動指標はこれに焦点をあてているが、今後の事業推進に向けた関係者の協働関係の構築が進められており、評価には長期的な視野も必要と思われる。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	1-(2)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	史跡等保護・整備事業（旧美敷水源地）	所属名 教育委員会事務局 文化財課

1. 基本情報

位置づけの 総合計画	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	10	ふるさとを愛し 次代を担う人づくり
	政策	02	文化・芸術に親しみ、楽しむ
	施策	1202	文化財の保存・活用

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	重要文化財旧美敷水源地水道施設
意図 (どのような状態にするために)	文化財として良好な状態で保存・活用し、地域資源としての価値を高める。
手段 (どうするのか)	建造物の保存修理と環境整備を実施する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	<ul style="list-style-type: none"> ・調査工事 ・特別公開の実施 ・建造物保護覆屋設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査工事 ・特別公開の実施 ・建造物保護覆屋設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・修理工事 ・保存活用計画策定 ・特別公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・修理工事 ・整備工事 ・特別公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・修理工事 ・整備工事 ・特別公開の実施 	
	年度別実績	<ul style="list-style-type: none"> ・調査工事 (建造物、地盤、橋梁) ・特別公開の実施 ・建造物保護覆屋設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査工事 ・特別公開の実施 ・建造物保護覆屋設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・修理工事 ・保存管理計画策定 ・特別公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・修理工事 ・整備工事 ・特別公開の実施 	/	
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	17,187	25,633	17,965	29,989	17,965	
	直接経費 A	11,939	20,435	12,865	29,989	43,288	
	直接経費の財源内訳	国・県	7,406	12,556	7,473	18,719	28,859
		地方債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
	一般財源	4,533	7,879	5,392	11,270	14,429	
人件費 B	5,248	5,198	5,100	5,286	5,250		
職員数の内訳	正規職員	0.70	0.70	0.70	0.70	/	
	嘱託職員					/	
	臨時職員					/	

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要 旧美敷水源地水道施設は、鳥取市の水がめとして大正から昭和にかけて60年にわたって使用された水道施設で、かつての上水道施設のありようを伝える貴重な近代化遺産として、平成19年6月に国の重要文化財に指定された。これを受け「旧美敷水源地水道施設保存整備基本計画」を策定、この計画に基づき、平成20年度から長期的視点に立った保存整備を行っている。この事業の実施により、旧美敷水源地水道施設を市民の誇りとなる遺産として将来にわたって伝えていく。</p> <p>2 事業の成果 平成26年度は (1) 国庫補助事業により、建造物保存修復工事・活用整備工事を実施（～29年度） (3) 利活用事業として特別公開を実施 (4) 市民と専門家からなる保存整備検討委員会及び建造物保存修復検討部会を開催 (5) 「全国近代化遺産活用連絡協議会」への参加</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	美敷水源地の調査工事の進捗率	%	目標	40	100	-	-	-
				実績	40	100	-	-	-
	(指標の説明)								
	2	美敷水源地の修理工事の進捗率	%	目標			30	40	60
実績						30	40		
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	美敷水源地の調査工事の進捗率	%	100%	100%	-	-	-
	2	美敷水源地の修理工事の進捗率	%	-	-	100%	100%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	国指定の重要文化財であり、所有者として市が主体的に整備・保存し、市民の活用に供する必要がある。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	システム全体が残る水道施設として全国的にも貴重な文化財だが、経年劣化が見られ、活用のためには保存修理の実施が不可欠である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	他に類例のない文化財建造物の修理事業であり、文化庁・国内の専門家の協力のもと、効率的に事業は進んでいる。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	全国的に価値のある文化財として、整備・活用の効果は広範囲にわたる。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	平成29年度完了を目的に、修理工事以外の環境整備を含め、円滑な事業の進捗を図る。	
今後の課題・方向性	保存整備基本計画に基づき、着実に事業を推進し、平成30年度の公開を目指す（補助金は国1/2、県1/6）。 公開後の管理を地元中心で行うための組織の確立と、効率的な情報発信・活用の推進が課題である（サイクリングコース等としての活用等は行われている）。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	平成30年度からの施設の公開を目指して確実に事業を進めることを望む。施設公開にあたっては情報発信・活用に工夫するとともに、施設のしっかりした管理運営体制の構築に努めてほしい。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	文化財としての整備は長期的な計画に基づいて実施されている。文化財の保存整備が中心となる事業であるが、事業完了後の活用に向けた準備や地域の体制づくりが進められており、評価できる。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	2-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画			
事務事業名	市民大学等開催事業	所属名	教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ課		

1. 基本情報

位置づけ 総合計画の	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	20	心豊かにいきいきと 人が輝くまちづくり
	政策	01	個性を活かし、活躍できる環境をつくる
	施策	2102	生涯学習の推進

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	市内に在住、勤務する成人
意図 (どのような状態にするために)	「いつでも、どこでも、だれでも、だれとでも、何でも、いつまでも」学習でき、また学習した成果を地域に還元するという生涯学習社会の実現を図る。
手段 (どうするのか)	優れた知識・技能を有する高齢者を各地域で開催される講演会等に講師として派遣し、高齢者がその年齢にふさわしい社会的地域を学習する尚徳大学や、市民が国際理解、郷土の歴史などの専門的知識、一般的な教養などについて学習する市民大学等を開催する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	尚徳大学の開催 高齢者人材活用事業 市民大学の開催	尚徳大学の開催 高齢者人材活用事業 市民大学の開催	尚徳大学の開催 高齢者人材活用事業 市民大学の開催	尚徳大学の開催 高齢者人材活用事業 市民大学の開催	尚徳大学の開催 高齢者人材活用事業 市民大学の開催	
	年度別実績	尚徳大学 講座開催回数102回 延参加人数6,294人 高齢者人材活用事業 事業回数 3回 延参加者数80人 市民大学 講座開催数28回 延参加者数558人	尚徳大学 講座開催回数114回 延参加人数6,186人 高齢者人材活用事業 事業回数 2回 延参加者数165人 市民大学 講座開催数30回 延参加者数752人	尚徳大学 講座開催回数114回 延参加人数6,755人 高齢者人材活用事業 事業回数 5回 延参加者数218人 市民大学 講座開催数30回 延参加者数726人	尚徳大学 講座開催回数126回 延参加人数6,692人 高齢者人材活用事業 事業回数 2回 延参加者数 90人 市民大学 講座開催数30回 延参加者数837人		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	7,579	7,785	7,832	8,109	2,279	
	直接経費 A	1,731	1,785	1,832	2,109	2,279	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他	520	532	590	851	900
一般財源	1,211	1,253	1,242	1,258	1,379		
人件費 B	5,848	6,000	6,000	6,000			
職員数の内訳	正規職員	0.80	0.80	0.80	0.80		
	嘱託職員	1.00	1.00	1.00	1.00		
	臨時職員						

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>【事業の概要】</p> <p>○尚徳大学 おおむね60歳以上を対象とした生涯学習事業で、高齢者の総合的な学習活動の機会の場として開設している。現在は、合同学習(共通)及び8つの専門コースで学習を行っている。 ・専門コース 社会、書道、絵画、民芸、健康、郷土、彫刻、文芸 コース ・学習内容 月2回の専門コース学習及び月1回の合同学習</p> <p>○高齢者人材活用事業 優れた知識、技能を有する高齢者を募り、講師あるいは助言者として、各地域で開催される講演会等に参加・派遣を行う。</p> <p>○市民大学 鳥取市に在住、または勤務する成人を対象とし、一般的な教養、地域に伝わる歴史、専門的な知識の学習を行っている。 平成26年度開催講座 ・国際理解講座 6回 ・市民健康講座 5回 ・郷土の歴史講座 5回 ・社会講座 6回 ・山陰海岸ジオパーク講座 5回 ・全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会学習講座 3回</p>
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	尚徳大学及び市民大学の延べ参加者数	人	目標	7,050	7,400	7,750	8,100	8,450
		(指標の説明)		実績	6,852	6,938	7,491	7,529	
	2			目標					
		(指標の説明)		実績					

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	尚徳大学及び市民大学の延べ参加者数	人	97%	94%	97%	93%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	市民の学習ニーズに適切に答えるために、各種学習機会を提供することは必要である。とりわけ、超高齢社会を迎えた現状において、地域社会の基盤となる高齢者を対象として学習機会と生きがいを提供する事業として妥当であると考えられる。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	高齢者の生きがいを、学びを通して促進する本事業は有効であると考えられる。また、市民大学では講座内容に社会的課題など民間事業では学習機会の少ないものも取り入れている。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	主に市の施設を利用して講座を実施し、また講師として各分野の専門家を招き、少ないコストで多様な学習機会を提供している。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	対象について年齢の他には原則的に制限を設けず、学習意欲のある人ならば受け入れているため、公平性は保たれている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	現代社会における高齢者が担う役割が日々増大していることをふまえて、文化的に豊かで社会参加を積極的に行う高齢者層の形成を視野に入れて学習機会を整備していく。また、多種多様な学習ニーズに適切に応えていくために、質的・量的な学習機会の提供に努力する必要がある。	
今後の課題・方向性	「尚徳大学」と「市民大学」は、それぞれの事業のねらいを明確にして幅広い市民に学習機会を提供するとともに、市民として学ぶべきテーマを取り入れつつ事業内容を体系的に整理する必要がある。また、学ぶ意欲に応える事業が活発なのに比べて学習の成果を活かす事業が低調である。「人材活用事業」においては、学習成果を活かし地域に還元する仕組みづくりを推進したい。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	高齢者が充実した生活を送るための仕組み作りは自治体の果たすべき重要なテーマであり、高齢者の学ぶ意欲に応える尚徳大学のような事業は重要である。また、高齢者それぞれの持つ知識技能を活用する仕組み作りも同時に重要なテーマであるので、高齢者人材活用事業をさらに工夫して活性化して頂きたい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	「人材活用事業」については「市民大学」「尚徳大学」の修了者も想定されているようであるが、事業の性格から考えると困難ではないかと思われる。「市民大学」「尚徳大学」の事業成果を地域に拡げることが意識されていることは評価されるが、別の形で成果の拡がりを捉えるべきではないか。「人材活用事業」については、独自の意義を持つと思われ、講師の募集や活用について改善が進められることを期待したい。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	2-(1)-(2)	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	成人式開催事業	所属名 教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ課

1. 基本情報

位置づけ 総合計画の	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	20	心豊かにいきいきと 人が輝くまちづくり
	政策	01	個性を活かし、活躍できる環境をつくる
	施策	2102	生涯学習の推進

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	新成人
意図 (どのような状態にするために)	新成人の二十歳の門出を祝うとともに、新成人に大人としての自覚と責任を促す。
手段 (どうするのか)	新成人によって成人式実行委員会委員会を組織し、新成人が主体となって成人式を企画・運営する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	[開催日] 平成24年1月3日(火) [開催場所] とりぎん文化会館 梨花ホール [対象者数] 約2,000人	[開催日] 平成25年1月3日(木) [開催場所] とりぎん文化会館 梨花ホール [対象者数] 約2,000人	[開催日] 平成26年1月3日(金) [開催場所] とりぎん文化会館 梨花ホール [対象者数] 約2,000人	[開催日] 平成27年1月3日(土) [開催場所] とりぎん文化会館 梨花ホール [対象者数] 約1,900人	[開催日] 平成28年1月3日(日) [開催場所] とりぎん文化会館 梨花ホール [対象者数] 約1,900人	
	年度別実績	[開催日] 平成24年1月3日(火) [開催場所] とりぎん文化会館 梨花ホール [参加者数] 約1,750人	[開催日] 平成25年1月3日(木) [開催場所] とりぎん文化会館 梨花ホール [参加者数] 約1,800人	[開催日] 平成26年1月3日(金) [開催場所] とりぎん文化会館 梨花ホール [対象者数] 約1,750人	[開催日] 平成27年1月3日(土) [開催場所] とりぎん文化会館 梨花ホール [対象者数] 約1,700人		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	4,693	4,834	4,633	4,118	1,850	
	直接経費 A	1,769	1,834	1,633	1,118	1,850	
	直接経費の財源内訳	国・県	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
一般財源		1,769	1,834	1,633	1,118	1,850	
人件費 B	2,924	3,000	3,000	3,000			
職員数の内訳	正規職員	0.40	0.40	0.40	0.40		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	1 事業の概要	新成人の二十歳の門出を祝うとともに、新成人に大人としての自覚と責任を促すことを目的に実施する。		
	2 事業の成果	毎年、約2,000人の新成人が集い、事業への関心は非常に高い。		
	【実績】	H24	H25	H26
	該当者人数	2,150人	2,043人	1,970人
参加者人数	約1,800人	約1,750人	約1,700人	

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	成人式参加者数	人	目標	1,800	1,800	1,800	1700	1700
				実績	1,750	1,800	1,750	1700	
	(指標の説明)								
	2		目標						
		実績							
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	成人式参加者数	人	97%	100%	97%	100%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	企画・運営は、成人式実行委員会で行い、式典準備や事務などは事務局（市）が行う。実行委員会と事務局がそれぞれの役割を果たし、連携して開催準備などが進められている。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	出席される新成人が多く、事業への関心は非常に高い。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	成人式対象者で構成される成人式実行委員会に委託し、実施している。新成人の意向が反映されている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	鳥取市に住民登録している方には毎年11月に案内状を送付。市報、ホームページなどでも周知を図っている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加
	<input type="checkbox"/> 2. 改善継続	<input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善	<input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化
	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持		
	<input type="checkbox"/> 4. 縮小	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少
	<input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止	<input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止
担当課等の評価コメント	引き続き新成人からなる実行委員会を構成し、新成人の自立した計画による魅力ある成人式実施を進める。成人式は、人生の節目に生まれ育ったふるさとを思う貴重な機会ととらえて事業実施に努めたい。		
今後の課題・方向性	継続して実施する。 【平成27年度実施概要（案）】 日時：平成27年1月3日（日）午後2時から 場所：とりぎん文化会館 梨花ホール 対象者：平成7年4月2日から平成8年4月1日までに生まれた者		

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	新成人が自ら企画運営するという方法は、新成人に大人としての自覚を促す上で良い方法である。ただし、毎年担当者が変わることになり、前年度の反省点が、次年度に活かさないのが難点である。その点は市の適切な指導等によりうまく対応してほしい。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	市教委が直接事業を企画している訳ではないため、新成人による実行委員会による準備や実施が適切なものとなるのが評価の重要な側面をなすものと考えられる。参加者数では十分に捉えることはできないが、前年度よりも経費を節約した内容で実施されるなど新成人の自主性が良い方向に作用しており、現行の方式が適切に運用されていると考えられる。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	2-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	地域社会教育活動総合事業	所属名 教育委員会事務局 中央図書館

1. 基本情報

総合計画の 位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	20	心豊かにいきいきと 人が輝くまちづくり
	政策	01	個性を活かし、活躍できる環境をつくる
	施策	2101	生涯学習の推進

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	子どもから大人までの市民等及び読み聞かせ等のボランティア
意図 (どのような状態にするために)	本に親しむ機会を得ることにより、幼い時期から読書の習慣を身につけ、自ら考え、行動するために必要な知識や情報を得て、自己実現を図るとともに、生涯にわたって心豊かな暮らしを送るため。また、地域文化の発展に寄与するため。
手段 (どうするのか)	子どもの読書活動を推進するため、ブックスタート事業の協力、おはなし会等の事業の実施をするとともに、絵本の読み聞かせ等ボランティア養成講座の実施。また、一般向け講座の実施。事業の展開にあたっては、広報媒体を活用して積極的な周知を図る。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	お話し会等を中心とした生涯学習活動とボランティアなどの社会貢献を促進する。	お話し会等を中心とした生涯学習活動とボランティアなどの社会貢献を促進する。 中央図書館開館30周年記念事業を実施し利用促進のためのPRに努める。	お話し会や各種講座を中心とした生涯学習活動とボランティアなどの社会貢献を促進する。 高齢者向けの講座「音読教室」を新たに実施するとともに中学生向けのブックリスト作成と公開を行う。	お話し会等を中心とした生涯学習活動とボランティアなどの社会貢献を促進する。 高齢者向けの講座「音読教室」を実施するとともに、学生向けのブックリスト作成と公開を行う。	お話し会等を中心とした生涯学習活動とボランティアなどの社会貢献を促進する。 高齢者向けの講座「音読教室」を実施するとともに、中学生向けのブックリスト作成と公開を行う。	
	年度別実績	<ul style="list-style-type: none"> おはなし会 読み聞かせボランティア養成講座 ブックスタート支援 講座、講演会 本のリサイクル市 視聴覚支援資料整備 ボランティアの受入 	<ul style="list-style-type: none"> おはなし会 読み聞かせボランティア養成講座 ブックスタート支援 講座、講演会 本のリサイクル市 視聴覚支援資料整備 ボランティアの受入 30周年記念式典及び記念講演会 	<ul style="list-style-type: none"> おはなし会 読み聞かせボランティア養成講座 ブックスタート支援 その他講座、講演会 本のリサイクル市 ボランティアの受入などを通じて読書活動の推進を図った 	<ul style="list-style-type: none"> おはなし会 読み聞かせボランティア養成講座 ブックスタート支援 その他講座、講演会 読書通帳の配布 本のリサイクル市 ボランティアの受入などを通じて読書活動の推進を図った 		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	
	事業費(A+B)	21,140	22,150	21,199	21,430	1,309	
	直接経費 A	1,013	1,595	839	830	1,309	
	直接経費の財源内訳	国・県	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
一般財源	1,013	1,595	877	830	1,309		
人件費 B	20,127	20,555	20,360	20,600			
職員数の内訳	正規職員	2.00	2.00	2.00	2.00		
	嘱託職員	3.00	3.00	3.00	3.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	1 事業の概要
	<ol style="list-style-type: none"> 各図書館で毎週定期的に「おはなし会」を実施 絵本の読み聞かせ等ボランティア養成講座を実施 保健センターが行なうブックスタート事業に協力 読書通帳の配布 とっとり市報への移動図書館車巡回日程の折込(年1回) 用瀬図書館開館25周年記念事業 など実施
	2 事業の成果
	<ol style="list-style-type: none"> 各種事業の開催により、子どもから大人まで多くの市民が図書館に来館し、事業を通して身近に感じること、図書館の利用促進を図るとともに、読み聞かせ、読書の推進を図った。 読み聞かせボランティア養成講座の開催により、講座に7割以上参加した人の内、90%がボランティア活動の実践につなげることができた。 読書通帳を配布したことで、市民が読書に興味を持つとともに、読書意欲の高揚を図った。

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・D * 目的に対する成果がわかりやすい指標に変更しました】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
活動指標	1	おはなし会、各種講座の開催回数	回	目標	190	195				
				実績	279	280				
	(指標の説明) おはなし会、読み聞かせボランティア養成講座等開催回数									
	2	読み聞かせボランティア講座等受入人数	人	目標	430	440				
				実績	409	376				
	(指標の説明) 読み聞かせボランティア受入人数									
	3	おはなし会、各種講座への参加者数	人	目標			4,500	4,550	4,800	
				実績			4,866	4,780		
	(指標の説明) おはなし会、読み聞かせボランティア養成講座等への参加者数									
	4	受講修了者(7割以上出席者)のボランティア活動実施率	%	目標			50	69	80	
				実績			68	89.7		
	(指標の説明) 受講修了者(7割以上出席者)のボランティア活動実施率(実施予定含む)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	3	おはなし会、各種講座の開催回数	%			108%	105%	
	4	受講修了者(7割以上出席者)のボランティア活動実施率	%			136%	130%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	生涯学習施設として、子どもの読書活動の推進を図るとともに、幼児から高齢者まで知識や教養を習得し、もって地域文化の発展に寄与する使命があるため。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	事業の実績として、目標としていた参加人数を上回っているとともに、事業後のアンケートでも満足度が高いため。また、読み聞かせボランティア受講者が実践に結びついているため。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	現代的な課題も考慮しながら各種講座、講演会などを開催しており、地元の人材(ボランティア)を活用するなどしているため。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	市立図書館3館が地域性を出しながら、各種講座、おはなし会等を実施している。幼児から高齢者まで幅広い世代を対象とした事業を展開している。広報についても、市報をはじめケーブルテレビなども活用し、広く取り組んでいる。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加
	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善	<input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合
	<input type="checkbox"/> 3. 現状維持		
	<input type="checkbox"/> 4. 縮小	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少
	<input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止	<input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	豊かな市民生活を送るためには、さまざまな知識や情報を容易に入手し、課題を自ら判断し、生涯にわたって学んでいくことが必要。図書館を最大限活用していただくため、様々なテーマで学習の機会を提供するとともに、読書活動につながるきっかけづくりを工夫する必要がある。		
今後の課題・方向性	幼いころから読書習慣を身につけるとともに、図書館を利用しない市民をいかに引き付け、読書活動へとつなげていくかが課題。そのために、事業の効果を検証し、市民ニーズを取り入れながら必要な事業を企画していく。		

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	文書を読み、知識・情報を得て、それを行動に生かすという技術の習得は現代社会で生きる上で必要不可欠である。その技術の基本にあるのは文を読み、理解する力である。読み聞かせなどの活動は地道ではあるが子どもに読書習慣を持たせるための第一歩として極めて重要である。今後はできるだけ多くの子どもに活動を広げていくことを期待する。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	事業への参加者数のみならず、講座修了後の参加者の活動の広がりを意識して評価と改善が検討されている。事業効果との関係が強く認識されており、評価できる。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	2-(1)-②	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	図書館情報管理システム処理事業	所属名 教育委員会事務局 中央図書館

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	20	心豊かにいきいきと 人が輝くまちづくり
	政策	01	個性を活かし、活躍できる環境をつくる
	施策	2101	生涯学習の推進

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	図書館3館及び中央公民館図書室6室及び市立病院の利用者情報、所蔵資料に関する情報、予約・貸出状況等の管理
意図 (どのような状態にするために)	図書館利用者情報などを適正に管理することで、市民に迅速、正確、公平な図書館サービスを提供し、利便性・効率性・経済性の向上を図る。
手段 (どうするのか)	平成24年度に更新した図書館情報管理システムを適正に運用し、利用者情報、所蔵資料情報等の管理を行い、利用者自身がインターネットから本の予約、予約状況の確認、貸出の延長などを行えるようにするとともに、予約した本が正確・迅速に利用者に貸出せるようにする。また、本の自動貸出機、自動返却機の運用により、利用者の利便性の向上を図る。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	H24年度11月の全面改修に向けて、システムの検証と構築を検討する。	新システムを導入して、利用の拡充拡大を図る。	新システムの効果的な運用により、一層の利便性強化、利用の拡充拡大を図る。	新システムの効果的な運用により、一層の利便性強化、利用の拡充拡大を図る。	新システムの効果的な運用により、一層の利便性強化、利用の拡充拡大を図る。	
	年度別実績	H24年度2月の全面改修に向けて、システムの検証と構築を検討する。公募型プロポーザル方式により調達することとする。	公募型プロポーザル方式により新システムを構築し、経費を抑えながらより高機能のシステムに更新し、利便性の強化を図った。	新システムの効果的な運用により、利用者の利便性の向上と業務の効率化を図った。	26年7月から市立病院図書室の図書館情報管理システムを当館のシステム内に構築し、より効果的な運用を行ったことで、利用者の利便性の向上と業務の効率化を図った。		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	
	事業費(A+B)	12,510	13,607	31,732	32,551	29,082	
	直接経費 A	8,760	9,894	28,089	28,790	29,082	
	直接経費の財源内訳	国・県	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	65	0
一般財源	8,760	9,894	28,089	28,725	29,082		
人件費 B	3,750	3,713	3,643	3,761			
職員数の内訳	正規職員	0.50	0.50	0.50	0.50		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	1 事業の概要 平成24年度に図書館情報管理システムを更新し、図書館3館及び中央公民館図書室6室、26年7月からは市立病院図書室を新たに加え、一体的に運用。
	2 事業の成果 (1) 市民の図書館利用の利便性向上 (一元管理) (2) 図書、利用者、貸出管理及び図書購入整備の効率性向上 (3) 地域間格差の是正 (4) 利用者によるインターネットでの検索、予約受付、貸出延長などのサービス提供 (26年度実績 (前年度比)) 蔵書冊数 623,816冊 (+9,191冊) 利用者登録数 59,851人 (+3,120人) 個人貸出 886,468冊 (-12,664冊) 団体貸出 99,067冊 (-24,013冊) 予約受付 136,548件 (+1,928冊)

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・D * 目的に対する成果がわかりやすい指標に変更しました】

指標名		単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1 図書館情報管理システム登録者数	人	目標	54,000	57,000			
			実績	65,849	54,687			
	(指標の説明) 情報管理システム処理件数							
	2 図書館情報管理システムによる本の貸し出し冊数	冊	目標	883,000	900,000			
実績			900,563	868,001				
(指標の説明) 情報管理システム処理件数								
3 セルフ利用率の拡大	%	目標			40	42	46	
		実績			45	45.4		
(指標の説明) 情報管理システム処理件数(貸出返却セルフ利用冊数/総貸出返却処理冊数)								
4 個人貸出冊数	冊	目標			900,000	910,000	905,000	
		実績			899,132	886,471		
(指標の説明) 図書館情報管理システムによる本の個人貸出冊数								

6. 活動指標の達成率【CHECK】

指標名		単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	3 セルフ利用率の拡大	%			112.5%	108.1%	
	4 個人貸出冊数	%			99.9%	97.4%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	図書館情報管理システムは多くの個人情報を扱うとともに、中央公民館図書室、市立病院図書室と一体的な運用を行うことにより、地域間格差を解消しているため。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	図書館システムは、現代の図書館の管理運営に欠かせないものであり、資料管理、利用者管理等大いに効率化が図られているため。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	資料の登録管理、利用者の管理、貸出等の利用管理などにおいて大いに効率化が図られており、費用対効果は高い。 また、保守料の範囲でバージョンアップを行う契約であり、常に改善しながら最新の環境で運用できている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	図書館情報管理システムと併せて搬送サービス網によって資料を届ける仕組みがあるため、どの図書館、図書室からでも同様のサービスを受けることができ、地域間格差の解消につながっているため。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	平成24年度に更新した図書館管理情報システムは常に進化しており、利用者にも職員にも利便性が高い。自動貸出機、自動返却機の利用促進はもとより、予約連絡が電話になっている利用者をメール連絡にシフトすることで効率化を図り、レファレンス（相談業務）を充実させていく。	
今後の課題・方向性	保守の範囲でバージョンアップを行い、一層の利便性の向上や効率化を図ることで時間を創出し、相談業務などの利用者とのコミュニケーションの強化を図る。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	図書館情報管理システムに市立病院図書館も加わり図書館のサービスが向上し、市民が利用しやすいようになったことから有益な事業であったと判断できる。ただし、進化したシステムやインターネット等の活用などは図書館を積極的に利用する一部の高齢者には取組やすい事柄であっても、多くの高齢者にはハードルが高いのではと危惧する。弱者の立場にたった優しい図書館であることを期待したい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	情報システムの活用は計画に沿って進捗している。一方で、システムが活用されることに依って期待されていた効果については想定通りには進んでいない部分も見受けられる。阻害要因となっている部分について改善をはかり、事業効果の向上につながることに期待したい。
--------	---

自己点検・評価シート

整理No.	3-(1)-③	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	市民体育祭開催事業	所属名 教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ 課

1. 基本情報

位置づけの 総合計画	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	30	笑顔があふれ 心やすらぐまちづくり
	政策	01	健康を守り、いきいきと元気に暮らす
	施策	3103	スポーツ・レクリエーションの振興

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	市内在住の全社会人
意図 (どのような状態にするために)	地域のつながりや一体感の醸成、活力のあるまちづくりに向けた市民総スポーツ運動の推進によって生涯スポーツの普及推進を図る。
手段 (どうするのか)	市内44の小学校区ごとにチームを組織し、対抗戦による種目別競技会を開催する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	・市民体育祭検討会の開催	・市民体育祭検討会の開催	・市民体育祭検討会の開催	・市民体育祭検討会の開催	・市民体育祭検討会の開催	
	年度別実績	・市民体育祭の開催参加者述べ23,895人 ・種目別参加チーム延べ449チーム	・市民体育祭の開催参加者述べ24,369人 ・種目別参加チーム延べ481チーム	・市民体育祭の開催参加者述べ23,520人 ・種目別参加チーム延べ472チーム	・市民体育祭の開催参加者述べ16,559人 ・種目別参加チーム延べ428チーム (台風のため陸上競技が中止)	/	
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	9,358	9,448	9,448	9,465	2,195	
	直接経費 A	1,861	2,022	2,163	1,943	2,195	
	直接経費の財源内訳	国・県	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
一般財源	1,861	2,022	2,163	1,943	2,195		
人件費 B	7,497	7,426	7,285	7,522			
職員数の内訳	正規職員	1.00	1.00	1.00	1.00		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要 鳥取市民体育祭は、昭和33年に市制70周年記念事業として始まった。毎年4月中旬の予選から、10月中旬まで約6ヶ月間に渡って44の小学校区ごとに約19種目(オープン競技含む)の競技を行い、得点を競い合うもので、選手・役員・応援などに延べ約25,000人の市民が参加する、全国でもあまり例を見ない本市最大のスポーツ行事である。</p> <p>2 事業の効果 鳥取市の掲げる市民総スポーツ運動の中核となる事業であり、生涯スポーツの推進はもとより、小学校区対抗とすることで、地域の一体感の醸成、他地域との交流の場として寄与している。</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	市民体育祭参加人員	人	目標	25,500	25,500	26,000	26,000	26,000
				実績	23,895	24,369	23,520	16,559	
	(指標の説明) 市民体育祭に参加する人数								
	2	各校区の述べ参加種目数	種目	目標	528	572	572	572	572
実績				449	481	472	428		
(指標の説明) 各校区の参加種目の合計(全校区が全種目に参加した場合、572種目)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	市民体育祭参加人員	人	94%	96%	90%	64%	
	2	各校区の述べ参加種目数	種目	85%	84%	83%	75%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	市民総スポーツ運動の中核事業として、毎年多くの市民に参加いただいている。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	生涯スポーツの推進や、世代間・地域間交流に有効であり、活力のあるまちづくりに寄与している。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	各種目協会等への委託により、円滑な運営体制が整っている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	市全域の校区を対象に開催しており、公平といえる。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	市民総スポーツ運動の中核となる事業であり、生涯スポーツや市民交流の推進の場となっている。参加者のニーズに合わせ、競技の実施方法等に改善を加えながら継続実施していく。	
今後の課題・方向性	今後も継続して取り組む。 開催種目等に関しては、地域体育会等の意見を反映し、より多くの校区・市民が参加できるように随時見直しを行う。 また、競技への参加者だけでなく、「見る」、「支える」人々の増にも努めていく。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	長く続く事業は往々にして社会の変化とかけ離れた事業になっていたり、当初の目的を達成できない形に形骸化していたりする恐れがある。アンケート調査を行う、あるいは意見交換会などを開くなどして、時に立ち止まり見直しをかけることも忘れてはいけない。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	26年度の活動指標の低下は陸上競技が中止されたことによる。ヒアリングの際には参加者層の拡大が今後の課題としてあげられていたが、そうした参加者の構成の変化や、大会を通じた生涯スポーツ活動の改善を捉えるよう、評価の方法が改善されることを期待したい。
--------	--

自己点検・評価シート

整理No.	3-(1)-③	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	姫路市スポーツ大会開催事業	所属名 教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ課

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	30	笑顔があふれ 心やすらぐまちづくり
	政策	01	健康を守り、いきいきと元気に暮らす
	施策	3103	スポーツ・レクリエーションの振興

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	鳥取市民、姫路市民
意図 (どのような状態にするために)	スポーツ交流を通して、姉妹都市として一層の親善と友好を深めるとともに、両市のスポーツの振興を図る。
手段 (どうするのか)	鳥取市と姫路市との相互開催で、スポーツ交流大会を開催する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		内容	大会の実施	大会の実施	大会の実施	大会の実施
年度別実績	鳥取市にて4種目開催 バレーボール(小学生女子)、バスケットボール(中学生女子)、ソフトテニス(中・高・一般)、グラウンド・ゴルフ(一般)	姫路市にて8種目開催 バレーボール(小学生男子)、卓球(小中一般)、バドミントン(小中高一般)、サッカー(小学生男子)、水泳(小学生男子)、軟式野球(小学生男子)、テニス(高一般)、ゲートボール(一般)	鳥取市にて4種目開催 卓球(小・中・一般)、バドミントン(小・中・一般)、ソフトボール(シニア)、弓道(一般)	姫路市にて4種目開催 軟式野球(小学生男子)、バスケットボール(中学生女子)、サッカー(小学生男子)、柔道(小中学生)	/	/
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)
	事業費(A+B)	1,327	1,312	1,299	1,031	599
	直接経費 A	577	569	570	279	599
	直接経費の財源内訳					
	国・県	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	577	569	570	279	599
	人件費 B	750	743	729	752	
職員数の内訳	正規職員	0.10	0.10	0.10	0.10	
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00	

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要 鳥取市と姫路市は、昭和47年に姉妹都市提携を結んで以来、各分野に渡って交流を広げてきた。スポーツにおいても、昭和52年から毎年、4種目程度の種目の役員・選手が相互訪問し、交流を深めている。 平成26年度第37回大会は、4種目を姫路市で開催した。</p> <p>2 事業の成果 姉妹都市として一層の親善と友好を深めるとともに、両市のスポーツの振興を図ることができている。</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	姉妹都市(鳥取市・姫路市)親善スポーツ交歓大会開催回数	回	目標	1	1	1	1	1
		(指標の説明)		実績	1	1	1	1	1
活動指標	2	姉妹都市(鳥取市・姫路市)親善スポーツ交歓大会参加者の満足度	%	目標				80	90
		(指標の説明)		実績				69.7	

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	姉妹都市(鳥取市・姫路市)親善スポーツ交歓大会開催回数	回	100%	100%	100%	100%	
	2	姉妹都市(鳥取市・姫路市)親善スポーツ交歓大会参加者の満足度	%				87%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	姉妹都市として、スポーツを通じて交流を深めることは、両市のスポーツ振興に繋がるものと考え。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	両市民がスポーツを通じて交流を深める良い機会を提供していると考え。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	競技運営については、各種目競技協会に委託している。また、大会開催地は毎年交互開催としている。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	両市間で開催競技を決定し、選手の選出は各種目競技協会に任せているが、一般観覧者の受け入れができないため、対象は限定的である。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	姉妹都市交流の一環として効果的な事業となっている。	
今後の課題・方向性	姉妹都市交流の一環として効果的な事業となっている。両市民競技者の友好交流とともにスポーツ活動を推進するため、今後も継続する。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	姉妹都市である鳥取市と姫路市のスポーツを通しての友好交流事業として評価できる。毎年の競技内容をチェックして、お互いの市のスポーツ振興にも役立っているかの検証は必要であろう。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	参加者も限定され、短期的な成果を確認することが難しい性格の事業であるが、活動のアウトプットにとどまらず、参加者の満足度調査などにより事業の成果を捉えようとしている点は評価できる。一方で、交流の効果は短期的に成果をあげるものとは考えにくく、これまで実施してきた事業全体の長期的な視点からの評価が必要ではないかとも感じられる。
--------	---

自己点検・評価シート

整理No.	3-(1)-③	平成26年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	鳥取マラソン開催事業	所属名 教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ課

1. 基本情報

位置づけの 総合計画の	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	30	笑顔があふれ 心やすらぐまちづくり
	政策	01	健康を守り、いきいきと元気に暮らす
	施策	3103	スポーツ・レクリエーションの振興

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	市内外のフルマラソン愛好家等
意図 (どのような状態にするために)	スポーツを通して鳥取市を全国に発信するとともに、県内外からの参加者との交流、市民を挙げての大会運営により、市民総スポーツを推進する。
手段 (どうするのか)	実行委員会事務局を組織して、官民一体となって県内唯一のフルマラソン大会を開催する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

内容		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	年度別計画		大会の実施	大会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の開催 ・新コースの設定 ・大会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の開催 ・大会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の開催 ・大会の実施
年度別実績		大会実施 参加者 2, 6 2 2 人	大会実施 参加者 2, 8 8 1 人	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の設立および開催 (年2回) ・新コースによる大会の実施 (年1回) ・大会実施 参加者 3, 0 1 2 人	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の設立および開催 (年2回) ・大会実施 (年1回) 参加者 3, 3 9 4 人	/	
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	
	事業費(A+B)	3,750	3,743	10,186	8,557	0	
	直接経費 A	3,000	3,000	8,000	6,300	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
	一般財源	3,000	3,000	8,000	6,300	0	
人件費 B	750	743	2,186	2,257			
職員数の内訳	正規職員	0.10	0.10	0.30	0.30		
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 平成26年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要</p> <p>平成19年度に約800名の参加のもとスタートした「鳥取マラソン」は、県内唯一のフルマラソン大会である。現在では全国のランニング愛好者約3,300名が参加し、鳥取市内の観光名所等を巡る魅力の詰まった大会となっている。</p> <p>主催 鳥取マラソン実行委員会 (鳥取県、鳥取市、新日本海新聞社、鳥取陸上競技協会の四者で構成)</p> <p>内容 フルマラソン(スタート:鳥取砂丘オアシス広場付近、フィニッシュ:コカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場、制限時間6時間)</p> <p>2 事業の成果</p> <p>マラソンを核に「鳥取市」を全国にPRする。</p> <p>実行委員会事務局を日本海新聞社に置き、民間の機動力とノウハウ、広告宣伝力を生かす運営形態としている。</p>
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1	鳥取マラソン参加者数	人	目標	2000	2100	3000	3000	3000
				実績	2622	2881	3012	3393	
	(指標の説明)								
	2	鳥取マラソンへの県外からの参加者数	人	目標			1800	1800	2100
実績						1771	1950		
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	1	鳥取マラソン参加者数	人	131%	137%	100%	113%	
	2	鳥取マラソンへの県外からの参加者数	人			98%	108%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	全国各地のランニング愛好者に向けた魅力あるマラソン大会であり、鳥取市の地域振興およびスポーツ振興に寄与できる大会である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	参加者は増加傾向にある。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	実行委員会を新日本海新聞社に設置し、民間の機動力とノウハウ、広告宣伝力を生かす運営形態となっている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	鳥取市民のみならず、県外からの参加も対象としている。公平性は評価できる。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	年々参加者が増加傾向にあり、鳥取市を全国にアピールできる大会へと成長しつつある。	
今後の課題・方向性	今後も運営体制を充実させ、参加者の増加につなげるよう継続する。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	このような全国的なイベントは鳥取市の知名度を上げ、また実質的な経済的効果がある点で重要な事業と考える。そういった意味からも運営体制などの工夫改善により参加者数の増加にぜひつなげてほしい。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	現行の事業はスポーツツーリズムの側面が強まっているが、それに伴い活動指標にも県外参加者数が設定されており妥当である。ヒアリングでは、量的な拡大の余地が小さくなってきていることが指摘されていたが、適切な時期に質的な評価の視点が強化されることが望ましいと考えられる。
--------	---

V 学識経験者の意見（総評）

【中島廣光氏】

鳥取市教育委員会の所掌する事業の外部評価委員を務めて3年目になる。これまでは個々の事業内容を理解し評価するだけであったが、事業同士の関係や事業全体についても概観できるようになった。

今回は25の事業を評価した。それらは大きく4つに分類できる。一つは、必ずやらなければならない基盤的な事業（ここでは「基盤事業」と呼ぶ）である。小中学校の改修・建設改築・耐震補強事業や学校給食調理委託事業、史跡の保存整備事業がこれにあたる。二つ目は、現在生じている問題に対処するために必ずやらなければならない事業（「対策事業」と呼ぶ）で、学校不適応対策事業や、学校給食費未納対策事業が含まれる。学力向上事業や地域で学ぶ職場体験活動事業などもここに入れることができる。三番目は、現在ある組織や活動の強化となる事業（「機能強化事業」と呼ぶ）。小学校外国語活動人材支援事業や図書館の事業がこれにあたる。四番目は、市民を元気にし、鳥取市、小中学校を活性化するための事業（「活性化事業」と呼ぶ）で、交流事業や学校づくり推進事業、鳥取マラソンなどの各種開催事業が含まれる。「機能強化事業」や「活性化事業」は、やることが望ましい事業と位置づけられる。

「基盤事業」は、年次計画をきちんと立て粛々と計画通り進めて行くことが大切である。一方「対策事業」の進め方は「基盤事業」のそれと比べて簡単ではない。現在生じている問題に対して対症療法的な対応ばかりしては、いつまで経っても問題はなくなる。「対策事業」をきちんと行いながらも、問題の真の原因がどこにあるのかを解明して、その原因を取り除く必要がある。例えば、学校不適応は単に個人が原因の場合もあるが、家庭環境、地域環境、学校や社会状況など原因が複雑にからみあっている場合も多い。学校だけでなく市と高等教育機関との連携、文科省を中心にした国をあげての原因解明と対策、対応が必要となろう。

つぎに「機能強化事業」の中の図書館情報管理システム処理事業についてである。システムの導入によって図書館側も利用者も便利になったのは確かであろうが、特に高齢の利用者については一部のICTに強い高齢者だけが便利さの恩恵を受けるのでは困る。市の事業であるからには常に弱者に配慮した事業立案と対応を望みたい。

最後に「活性化事業」について。昔から長く続いている事業は、事業が始まってからこれまでの間、社会の情勢も大きく変化しており、現在も続けていく意味があるのかを一度は立ち止まって考える必要がある。例えば、市民体育祭開催事業は、始まった当時（昭和33年）は他にレクリエーションが少なく、市民の関心も高く開催する意味は十分にあったと推察されるが、現在のように多くの娯楽が溢れている状況ではどうか？若者の新たな参入はあるのかどうかなどの調査を行い、データに基づいて再考する時期に来ていると思われる。また、姫路市や郡山市との交流事業は、大人が目線だけで企画運営していないか？子どもにとって、どのような効果が生まれているのか？など、きちんとした検証が必要である。この際、姫路市スポーツ大会開催事業と姫路市・郡山市小中学校交流事業を統合したよりよい事業の形を模索することもあっても良いかも知れない。

【石川真澄氏】

本年度よりヒアリングの実施形態に若干の変化があったことに依るものかも知れないが、事業評価の際にアウトプット指標で事足りると判断しているのではないかと懸念されるものが一部にみられた。当初計画した事業を当初計画通りに実施したとして、事業そのものの妥当性を判断することはできない。評価の際に事業の有効性を判断するための根拠として用いられるべく指標は設定される必要がある。

教育委員会の所管する事業には、明確に数値化した指標を設けることが極めて困難であるものも多い。しかしながら、政策効果であるアウトカムを捉えることを放棄し、アウトプットのみに基づき当事者の主観的な判断で事業評価を進めることが多数となれば、旧来の予算・決算による執行管理と事業計画に基づくプロセスと違いのないものとなりかねない。

事業がどのような主体を対象とし、どのような経路を辿って最終的な政策目標に効果を発現させるか、それらの構図を最終目標とともに捉え、指標化こそ行われていないもののアウトカム志向の改善プロセスが看取される事業も少なからずあるため、全体的には事業評価の活用は定着しつつあるものと思われる。

今後も評価方法の改善が進み、市民や高位の意思決定者が教育委員会全体の事業の改善を論ずる際に、また、実際の事業の改廃が検討される際に事業評価の結果が活用されるように発展することを期待したい。

資料 1 (自立と創造の学校づくり推進事業関係)

平成 26 年度「自立と創造の学校づくり」推進事業総括表

(小学校の部)

校 名	事 業 名 及 び 事 業 の 内 容 等
久 松	<p>【確かな学力と豊かな心を育てる地域に根ざした教育活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の自然・歴史・文化を学ぶ体験的な活動(しゃんしゃん傘踊りを学ぶ、久松山登山、久松地区の自然、文化、歴史を学ぶ) ○地域の教育力を生かした活動(読み聞かせ、芸術鑑賞、社会教育施設調査他) ○学校ぐるり花いっぱい運動や学級園・学校園栽培活動(農作物の栽培、花作り他) ○授業づくり・学力向上(スキルタイム・久松サマースクール、ぐんぐんタイム) ○仲間づくり(縦割り班活動・集会活動・縦割り外掃除)
醇 風	<p>【～まごころをもった人づくり&家庭・地域と共にある学校づくり～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意欲的な学びと確かな学力をつける(はげみタイム、ことばの力の育成、基礎学力の向上) ○すこやかな体をつくる(学習姿勢モデルの掲示、自ら体力づくりに励む子どもの育成、基本的生活習慣の確立) ○まごころをもってつながり、高め合う集団をつくる。(Q-Uの活用、縦割り活動、醇風賞の奨励) ○家庭・地域と連携した学校を作る(「ふるさと醇風人材バンク」の整備、地域の人材の活用や交流)
遷 喬	<p>【ともに学び合い、ともに生きる、たくましい遷喬っ子の育成 ～地域の教育力を活かし地域に根ざした特色ある教育活動を展開する中で、「学びの質」を高め、「学校が好き、学ぶことが楽しい」学校づくりをめざす～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちがつながる「学び合う学び」学習(学びの質を高める授業研究・教材研究) ○より広く、よりよい人間関係の構築(Q-U調査、なかよし班遊び、百人一首他) ○環境・ボランティア活動(若桜街道と智頭街道の花壇整備、袋川を素材とした体験学習の工夫他) ○地域の先輩との出会いの場の工夫(キャリア教育：創立記念式、ディサービス他) ○各学年の発達段階にあった国際理解教育の充実(ALTとの交流、外国人を招待) ○ギネス大会(年2回ギネス大会の開催)
修 立	<p>【豊かな心、確かな学力を身につけ、集団の中で意欲的に取り組む子どもの育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣の確立と体力向上の取組(地域・保幼小連携、マラソン大会・体力向上イベント充実他) ○基礎学力の向上・ユニバーサルデザインの授業づくり(教材・教具の工夫、基礎的発展的学習のためのプリント作成、音読会、俳句作り他) ○豊かな心の育成と高学年のリーダー性の育成(なかよしタイム、「山の手コーラス」との交流、本物に触れる豊かな体験(能・箏・茶道・華道等) ○安心して学習・生活ができる学級づくり(教育相談の開設・Q-U調査の活用)
日 進	<p>【豊かな心、確かな学力、体力を共に高め合う 活力ある楽しい学校づくり ～伝え合い、折り合い、ともに実現する力をつけ、連帯感を育む仲間づくり～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的に関わり合う仲間づくり(縦断的仲間作り：なかよし班活動、委員会活動・集会活動の工夫他) ○学力・体力向上(ぐんぐんランラン、チャレンジタイム、月末テスト・CRT学力検査の活用他) ○自然、文化、人とのふれあいの推進(フィールドワーク、環境美化活動、昔の遊び、ふるさとの特色調べ、卓越した技能・技術を持った方々からその真髄を教わる、幼稚園・保育園児との交流、外国の方との交流、民芸品作成、読み聞かせ、演劇他)

富 桑	<p>【人間関係を基盤とした学力向上】</p> <p>○人間関係づくり（ペア学習、学級経営力育成（Q-U調査）、桑の実活動（縦割り班活動、栽培活動（さつまいもづくり、学校花いっぱい活動等）、交流活動、和の文化活動（「相撲」「和太鼓」）、児童集会、歌声集会、暗唱集会他）</p> <p>○学力向上（生活リズム調べ、家庭学習の習慣化と学力向上の時間「にこにこタイム」、本の読み聞かせ、基礎学力定着のための帯時間「きらきらタイム」他）</p>
稲葉山	<p>【「ふるさとの学校」づくり ～ふるさとに支えられる側から、ふるさとを支えて、貢献する人材へ～】</p> <p>○豊かなつながりを求めて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年学級経営の充実…特別活動を中核とした豊かなつながりを育む ・心の教育の推進…規範意識や相手を思い合う心を培う ・校種をこえた学校・園との連携 ・家庭や地域社会との協働 <p>○学力向上に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導における授業改善…確かな学力の向上を図る ・学習環境の充実
城 北	<p>【豊かな心 確かな学力を身につけ たくましく生き抜く城北っ子の育成 ～ 喜んで登校 満足して下校できる城北小学校 ～】</p> <p>○やさしい子【徳】・・・素直で思いやりのある子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営を核として心の教育を充実させ、好ましい人間関係づくりに努める。 <p>○かしこい子【知】・・・自ら学びがんばる子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかまと共に学び合う中で基礎的・基本的な学力の定着に努める。 <p>○たくましい子【体】・・・たくましく行動する子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己目標に向かって、健康な体づくりに努める。 <p>○ふるさとを思う子・・・地域に生きる城北の子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと城北を知り、大きな志をもつ子どもに育てる。
美 保	<p>【子どもの居場所がある「笑顔」と「やる気」にあふれた学校づくり】</p> <p>○「笑顔」プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の授業研究を行い、仲間づくりを推進する。 ・基礎基本となる事項の確実な習得を図る。 ・各学級における夢掲示と振り返り活動 ・夢集会の実施 ・学習の手引きを作成・配布し、活用する。 <p>○「やる気」プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別夢集会、全校活動（運動会、創立記念式、水泳・陸上練習）、スキー教室を通して、目標をもちそれに向かう実践的な態度を育てる。 ・芝生を活用した日常生活での遊びの活性化 ・名人認定システム ・運動会を通して異学年の仲間意識を育成する。
賀 露	<p>【生き生きとした賀露健児の育成】</p> <p>○自己目標を設定し、意欲的に取り組む（水泳、縄跳び、マラソン、読書、自主学習）</p> <p>○各教科の基礎基本（知識・技能等）の確実な習得</p> <p>○「か・ろ・けん・じ学び」の充実と活用能力の育成</p> <p>○道徳教育、特別活動の充実をめざした授業実践と横断的な指導の推進</p> <p>○家庭での望ましい生活習慣の定着化</p> <p>○食農教育を推進し、栄養教諭と連携した指導、米作り体験の充実</p> <p>○登校に向けた指導と支援の工夫・対策の強化</p> <p>○ボランティア活動を通して地域の人々に感謝し、地域の一員としての自覚を深める</p>

	<p>○国際交流活動を通して、外国への視野を広げるとともにコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>○防災教育の見直しと地域の実情に応じた防災教育の実践と防災意識の高揚</p>
明 徳	<p>【みんなで育てよう！！ 夢をもち、新たな知を拓き、感性を磨き、心と体を鍛える明徳の子ども】</p> <p>○学力向上（言語活動の活性化）</p> <p>○人間関係（仲間）づくり（豊かな体験活動、歌で心を育む、花で心を育む、本で心を育む、「明徳ビオトープ」の育成と活用、なかよしチャレンジ班活動他）</p> <p>○生活習慣育成と体力向上（基本的な生活習慣の育成、正しい食生活を実践しようとする態度の育成、学年運動、縦割り班運動、体育学習の工夫と充実）</p> <p>○地域連携（地域の人々との交流をとおして地域とのつながりづくり）</p>
倉 田	<p>【「学びの自立と協働をめざして」“2014 チームKURADA～心を一つに～”】</p> <p>○知育（授業の工夫・改善、「読み・書き・計算」の徹底指導、美しい言語環境づくり、学習規律の構築、家庭学習の定着と充実）</p> <p>○徳育（学級経営の充実、なかよし班活動の系統的・意図的活動、礼儀の気持ちを重んじる人間関係の醸成、優しさや感謝の気持ちを表現する場づくり、「チーム KURADA」で誇りと所属感の自覚）</p> <p>○体育（水泳・陸上・縄跳びでの切磋琢磨、太陽 Sun 3 外遊び、基本的な生活習慣の定着、食育の推進、自分の体は自分で守る）</p> <p>○学校を拓く・学校を魅せる（学校支援ボランティア事業の活動、匠に学ぶ活動、地域や家庭との合同防災訓練の実施、まち comi メールでの緊急連絡網の整備、ホームページ更新での情報発信）</p>
面 影	<p>【「つながれ かがやけ 面影っ子」3プロジェクトによる子どもの育成 ～人との出会い、かかわり、体験のなかから、自信とやる気に満ちた心豊かな面影っ子の育成をめざし、「喜んで登校し、満足して下校する学校」づくりに努める～】</p> <p>○学力向上プロジェクト（授業づくり部会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の確立、基礎学力の定着 ・特別支援教育の充実 <p>○生活力向上プロジェクト（集団づくり部会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣・規範意識が育ち「しぐさ」へ ・集団への所属感や達成感を高める ・自分の住む地域に誇りを持つ <p>○しなやかな心と体力向上プロジェクト（生活習慣づくり部会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の定着を図る ・遊び、運動の生活化

神戸	<p>【神戸に感動し、神戸で感動し、神戸を感動させる子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな体験活動（桃まつりへの参加、野菜作り、花壇整備、米づくり体験、野鳥観察会、神戸っ子わくわく探検） ○様々な人との交流（高齢者との交流、桃作り体験学習、美和小学校との交流会、ふれあい収穫祭、敬老会への参加、「神戸を語る会」への参加、障がいのある方との交流、花の鉢プレゼント、地域の方を招いた授業） ○砂見太鼓の継承（講師を招いての練習会、桃まつり・因幡和太鼓の祭典等での披露） ○なかよし班活動（1年生を迎える集会、せせらぎ集会、さくら山集会他）
美和	<p>【みんなで創造する楽しい学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の力を高めようとする子ども（チャレンジタイム、家庭学習調べ、元気はつらつ調べ、ランラン走・縄跳び運動、月末テスト） ○豊かな心を持ち、人とつながりあう子ども（hyper-QUの実施、花いっぱい運動、神戸小学校との交流会、昔の遊び交流会、障がいのある方との交流、美和保育園との交流、なかよし班活動） ○伝統文化を愛する子ども（クラブ活動（生け花・銭太鼓・すずっこ踊り等）、運動会での傘踊りの披露）
大正	<p>【学ぶ力と豊かな心を持ち、たくましく生きる大正っ子の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字能力検定で該当学年以上の級で受験した100%の児童の合格を目指す（漢字チャレンジプリント、漢字検定模擬試験等） ○地域の人と進んで交流し、自分たちの「学び」や「感謝の気持ち」を伝える（一人一鉢、お世話になった方を招いての交流会） ○8割以上の児童が、教科書や自分の好きな詩を一人で堂々と「語り」ができる（国語の時間での「語り」の指導、「語りの会」の実施等） ○あたたかな人間関係づくりに取り組む（QU調査の実施） ○算数科を中心にした「学び合い」の学習に取り組む
東郷	<p>【地域の自然・人的環境を生かした体験活動と小規模校のよさを生かした学校生活の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験活動を重視した教育活動 ○地域の自然、人的環境を活用した活動の工夫 ○交流学习の実施（高草中学校区にある明治小学校との交流） ○一人一人の学びを大切にされた学力の定着 ○お年寄りや福祉に携わる人との触れ合い活動
明治	<p>【つながろう 心ゆたかに 明治っ子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の方との交流（梅採り、梅まつり集会、ブルーベリー摘み、いきがいの森、芋・米作り活動、収穫祭他） ○地域の特性を生かした体験活動（安蔵スキー場スキー教室、地域探検、自然観察・愛鳥活動、川遊び他） ○東郷小学校との合同学習、遷喬小学校との合同体験活動、豊実保育園とのふれあい交流 ○お年寄りとの交流、ボランティア活動 ○緑化・美化活動（一人一鉢運動、やまびこ遊園の美化活動） ○挑戦や表現・コミュニケーション等の体験活動（暗唱チャレンジ等） ○外国語活動や国際交流集会などの国際理解に関する活動 ○高草中学校区「学力向上」「生活習慣」「心の教育」3部会の活動とタイアップした活動 ○表現力・コミュニケーション能力の向上を図る活動

世 紀	<p>【確かな学力をつけ、心を育む教育の推進】</p> <p>○基礎学力の定着（わかる授業の確立、算数科の少人数指導の学習パターンの確立、算数・国語の基礎学力を補完するための補充プリントの作成、高草中学校区生活・学習の手引き「高めよう 学びの力」の活用、年2回評価テストの実施他）</p> <p>○温かな心を育む人間関係の育成（縦割りなかよし活動（異学年交流、集会活動）、朝の奉仕活動、花や野菜の栽培、読書活動の推進他）</p> <p>○元気で活力のある学校の推進（挨拶運動の徹底、委員会・係活動の充実、きれいな学校づくり、地域の方との交流による地域を愛する力と人間関係力の育成）</p>
湖 山	<p>【日本一の湖山池にキラリと輝く学校をめざして】</p> <p>○学級経営と縦割り班の充実 ～穏やかな人間関係の中で～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q-U検査の実施・分析による学級づくりの再構築と学級経営の充実 ・特別活動の充実による異年齢による縦割り班活動 ・もの・こころを揃えることによる礼儀ある人間関係づくり ・すべての子どもが☆キラリ☆輝ける特別支援教育の充実 ・体験活動の充実 <p>○基本的な生活習慣の定着・体力向上 ～切磋琢磨するなかで～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スマイル貯金」の実践 ・「湖山っ子家族キラリプロジェクト」の実施 ・体力向上、太陽を浴びる活動の保障 ・学校不適應への取組 <p>○基礎学力と表現力の育成 ～美しい言語環境の中で響き合う姿をめざして～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の充実 ・国語部での基礎学力・表現力の育成、特別活動部での人間関係づくりと「折り合い力」の育成 ・学ぶ喜びのある授業の工夫・改善 ・学習規律の構築 ・美しい言語環境の充実 ・課外を活用し、基礎学力の定着をめざす
湖 南	<p>【未来への発信こなんプロジェクト ～「拡がる」人づくり・地域づくり～】</p> <p>○コミュニケーション科及び総合的な学習の時間の年間指導計画の見直し</p> <p>○伝統文化等の体験活動（地域の方を講師に招聘、茶道・華道、日本の伝統楽器の演奏、昔遊び等）</p> <p>○農業体験・花づくり（地域ボランティアの活用、サツマイモ・花づくり）</p> <p>○縦割り班活動（異学年交流の場としての全校遠足、マラソン大会、駅伝大会等）</p> <p>○ALTの先生方との交流活動英語教育の充実（市内のALT13名との交流活動「Caravan in 湖南！」の実施）</p> <p>○湖南お役立ち隊</p>
末 恒	<p>【「末恒っ子輝きプロジェクト」～挑み 関わり 究める「輝く末恒っ子」の育成～】</p> <p>○「挑む」事業（基礎学力の定着（パワーアップタイム）、自己分析力と向上心の育成、読書祭りの充実、砂浜マラソン・全校ギネスの挑戦、全員外遊びの推進、末恒太鼓の継承）</p> <p>○「関わる」事業（児童会活動の活性化、縦割り班活動の充実とリーダー育成、末恒しぐさ（あいさつ、廊下歩行、スリッパそろえ、名札付け）の定着）</p> <p>○「究める」事業（学習習慣の定着、学習規律の定着、授業力の向上（授業改善）、「わくわく交流ひろば」の実施）</p>

米 里	<p>【世（社会）のため 人のためになる 人としての素地を養う】</p> <p>○のびっ子農園米作り体験活動（地域の方々と一緒に米作り、地域の方々と収穫祭を開き、餅つき）</p> <p>○県無形文化財「雨乞い踊り」の伝承活動（6年生の総合的な学習の時間、収穫祭、校内・校外での上演）</p> <p>○学力向上へのとりくみ（Q-U検査、個に応じた指導、先進校視察、「中学校区家庭学習の手引き」の全戸配布と家庭学習実態調査の実施を通じた保護者と連携しての家庭学習の習慣化）</p> <p>○米里校区教育コミュニティの推進 ～学校運営協力者会の設置と運営を通して～（学校運営協力者会の設置と開催、協力者が主催する機関との活動連携、稲作体験及び伝統行事体験における協力者活動、交流活動の充実、特別活動の推進）</p>
津ノ井	<p>【ともに学び、心豊かに たくましく育つ 津ノ井の子 ～授業づくり・仲間づくり・体づくり・学校づくり～】</p> <p>○授業づくり（授業のユニバーサルデザインの理論研究とその実践、外部人材を活用しよきモデルと出会う魅力ある授業、学習ルールの徹底、基礎学力の定着、家庭学習の習慣化）</p> <p>○仲間づくり（学級経営の充実、人間関係づくり、自主性、主体性を育てる活動、高学年の児童のリーダー育成）</p> <p>○体づくり（健康に関わる学習の充実、カードの活用、基本の運動を軸にした体力の向上、家庭、地域連携）</p> <p>○学校づくり（ユニバーサルデザインの視点に立った見直しと安全に生活できる学校環境づくり、児童自らより良い学校づくりに参加し積極的に委員会や学級での活動を展開、桜ヶ丘中学校区共通実践項目「あいさつ、じかんをまもる、くつそろえ」の取組、地域の方々とふれあいや外部人材との交流他）</p>
浜 坂	<p>【コミュニケーション能力を高め、互いに認め合い、つながり合う子どもの育成】</p> <p>○集会活動（1年生を迎える会、音読発表会、砂丘クロスカントリー、百人一首大会、なわとび集会、6年生を送る会、児童ミニ集会）</p> <p>○心とことばを育む活動（ふるさと学習、交流活動、読書推進活動、一人一鉢運動）</p>
岩 倉	<p>【確かな学びと温かな心の交流と活力のある学校をめざして】</p> <p>○基礎学力の定着と学び合う学習集団の形成（毎日の「はげみ学習」の充実、チェックテストの実施、「はげみプリント」、「岩倉下敷き」の活用他）</p> <p>○心を育みつながる関係づくり（Q-U調査の実施と活用、縦割りなかよし班活動での異学年交流の充実、地域の方との交流を通じたふるさとを愛し人を大切に思う心の育成）</p> <p>○たくましく活動し、みんなのために働く子を育て、潤いのある学校づくり（朝のさわやか活動、花いっぱい運動、潤いのある学校環境作り）</p>

美保南	<p>【自立した心豊かな子どもの育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Q U調査の実施（年2回） ○あいさつ運動の推進 ○学習規律の徹底を図る掲示物・手引きづくり ○チャレンジタイムの実践による基礎学力の定着 ○地域の方々との交流活動（梅ジュース作り、敬老祭、なごみ苑との交流、保・幼連携等） ○剛健タイムの充実 ○読み聞かせグループとの連携
湖山西	<p>【聴き、考え、学び合う子どもの育成 ～学びを生かし、生活をよりよくしようとする子どもをめざして～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭や学校での生活習慣の見直しや皆で取組める運動の奨励による「心と体の健康づくり」に取り組む。（「いきいきウィーク」の実施、体育の水泳学習において、地域の「水泳名人さん」に学ぶ、地域で共に暮らす障がいのある方に学び、心のバリアフリーの意識を高める） ○子ども同士のかかわり合いをより積極的に進める仲間づくりに取り組む。（縦割り班を活用した異学年交流、班の応援旗の活用した学級の仲間づくり） ○基礎学力の向上と互いに学び合う学習集団の構築による「確かな学力」の育成を図る。（湖東中学校区の家庭学習の手引きの活用、チャレンジタイム他） ○校区内の清掃活動、花作りを中心とした美化活動に、なかよし班や委員会活動を中心として取り組む。（地域にある高校等の交流） ○校区にある物的・人的資源を活用することにより、地域のよさを理解するとともに、校区のお年寄りや福祉施設の方々との交流活動等の推進に取り組む。（ボランティア活動、清掃・美化活動、交流活動、葦の卒業証書の作成他） ○外国語活動の充実や、地域性を生かした外国人留学生との交流等、国際理解教育の推進に取り組む。（効果的な教材・教具づくり、外国人留学生とのふれあい活動等）
中ノ郷	<p>【自ら学ぶ意欲と確かな学力を身につけた、感性豊かなたくましい児童の育成～みんなで伸びる創立20周年事業の推進～】</p> <p><楽しい学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えを十分に表現し伝え合う学級集団の創造 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校やいじめ被害の未然防止（Q-U調査の実施・活用） ・学級経営についての全職員研修の充実（講師招聘、Q-U分析技能の向上研修） ・コミュニケーション力を磨く実践の推進（日本語検定等） ・豊かな言語感覚、完成の育成（「今月の古典」の実施、短歌・俳句などの創作活動） ・よりよい学校を築こうとする態度の育成（縦割り班活動「ポップコーンタイム」等） ・意欲を高め、成長が実感できる体験的活動の重視（稲作体験、国際交流活動等） <p><わかる授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師力向上による楽しくて学びのある授業実践 <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善の推進（中ノ郷中学校区スタンダードの活用、ICT活用教育の推進等） ・特別支援教育の推進 ・学校支援ボランティア（スタディアシスタント）の積極的な活用 <p><かかわる生活></p>

	<p>○地域のヒト・コト・モノを生かした学習や行事の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立20周年事業の推進（「ようこそ先輩」、「ミニコンサート」等） ・環境教育活動との関連教科（アルミ缶、ペットボトルキャップの回収等） ・福祉教育や特別活動との関連教科（花いっぱい交流等） <p>○地域の伝統文化の体験と国際理解の充実によるふるさと中ノ郷理解の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化の体験 ・国際理解教育の充実（ドイツ、モンゴルとの交流等） <p>○保護者や地域人材を積極的に活用した学習活動の充実</p>
若葉台	<p>【若葉台っ子の3C(Communication Challenge Creation)をめざして】</p> <p>○思いやり・みんなのために尽くす心の育成（学級経営、人間関係の構築（QUの活用）、フレンズ活動（全校縦割り集団）、異学年交流、花いっぱい運動、国際交流活動、ボランティアとの交流、読書・民話ボランティアの読み聞かせ他）</p> <p>○主体的に学ぶ力の育成（基礎学力の向上 ・プロジェクトによる授業改善 ・文化の香りの創造(全校造形遊び)他）</p> <p>○目標を持った健康・体力づくり（体力づくり・メディア調査）</p> <p>○開かれた学校づくり（学校評価とその公表）</p>
宮ノ下	<p>【「地域とともに育てる心豊かな宮ノ下っ子」の育成】</p> <p>○学力向上（児童主体型への授業改善、家庭学習の充実、言語活動の充実と指導と評価の一体化、伝え合う力の育成、標準学力検査 全国学力・学習状況調査の活用、チャレンジテスト、学びあう認め合う学習集団づくり他）</p> <p>○豊かな心の育成（体験活動の充実、感動体験の設定、みやこ保育園との交流、動植物の栽培や飼育活動、道徳教育の推進、自尊感情の育成、縦割り班の自治的・自主的活動、ボランティア活動他）</p> <p>○健康と体力づくり（基本的な生活習慣の確立に向けたアンケート調査、すくすく宮ノ下っ子6つの約束と点検カードの実施、自尊感情・他尊感情を高めるための心の教育他）</p> <p>○地域に開かれた学校づくりの推進（地域の人材活用）</p>
国府東	<p>【国府に根付き世界へはばたく子（高きをめざし 世界をめざす かしこい東っ子）の育成】</p> <p>○家庭・地域との連携による教育の充実（読み聞かせボランティア「ほかほかザウルス」による読み聞かせ（朝の読書時間）、地域の特色に学ぶ学習（万葉集の朗唱、因幡の傘踊り、東太鼓、雨滝小唄の継承）、三地区運動会・文化祭・敬老会、地域行事への参加、地域人材の学習への参加、地域・保護者との連携による生活習慣・学習習慣の定着他）</p> <p>○国際理解教育・ボランティア活動・福祉教育の推進（国際交流集会、障がいのある方々や盲導犬との交流、校舎内外の環境美化活動他）</p> <p>○授業づくり（「考え、学び合い、伝え合う子どもを育てる」授業づくりの実践、学習・生活習慣の実態把握）</p>

福 部	<p>【「未来を ひらく きずく になう 福部の宝」プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○やさしい子ども（徳）プロジェクト（学級のなかまづくりの推進、あいさつ運動、特別活動の充実、自主的なきらめき班活動） ○かしこい子ども（知）プロジェクト（基礎的・基本的事項の定着、楽しい授業・分かる学習の展開、読書指導の充実、授業改革（授業力の向上）） ○たくましい子ども（健・体）プロジェクト（よりよい生活習慣の充実、健康・体力の向上） ○福部の宝プロジェクト（園・小・中がつながる一貫カリキュラムづくり、地域の「財」を生かした協働学習の推進 ～福部を知る・学ぶ・考える～
河 原 第 一	<p>【絆を深め、きらきらかがやく河一の子どもたち ～「学び合い、高め合う」子どもを育む授業づくり～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習クラブ・繰り返しプリントを活用した学力定着 ○Q-U検査を実施し、児童が安心した学校生活を送れるために指導に生かす ○豊かな心を育む全校一斉の花いっぱい活動（前期・後期） ○集会活動や各種行事における縦割り班による活動 ○地域の伝統行事「あゆ太鼓」の伝承（4・5・6年生） ○地域の人との交流（総合的な学習、学校行事、クラブ） ○日常的な朝の合唱などの音楽表現活動や芝生での身体活動
西 郷	<p>【思いやりの心を持ち、たくましく自ら学ぶ西郷の子どもの育成 ～体験・交流活動をとおして地域のすばらしさを知り、地域に誇りを持つ教育活動の創造～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別活動、生活科及び総合的な学習の時間を中心として、地域の人やふるさと先生との交流学习を全学年で実施する（さつまいもとじゃがいも栽培、米作り、わくわくハウスでの野菜作り、保育園との交流、西郷の自然と生き物・魚料理、焼き物に挑戦他） ○言語活動を大切にした学力の向上に努める（スピーチ集会、毎月の俳句作り、読書の奨励、学習規律や正しい生活習慣の定着他）
散 岐	<p>【散岐を愛し、心豊かにたくましく、他と共に生きる子どもの育成 ～自立と共生～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全校児童による「皿回し」体験活動と技能向上をめざした発表会 ○交流体験活動（「地域の楽校づくりの会」での交流体験等） ○コミュニケーションを重視したさまざまな人との出会いと交流（保護者・地域・外国の方等との交流）
用 瀬	<p>【「輝く夢に向かって ～元気！やる気！知識！～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○郷土に誇りと愛着を持ち、地域の伝統・文化や人々に関わろうとする子どもをつくる（さん俵作り、流しびな寿司、豆腐・味噌作り、野菜作り） ○元気な体をつくる（基礎的生活習慣の確立、体力作り、スキー教室） ○やる気のある（豊かな心）を育て、望ましい人間関係を築く（縦割り班活動、縦割り班子ども集会、生活・学習のきまりの作成「もちっこの生活」人間関係づくり（Q-U調査の活用）、花いっぱい運動、千代南中学校区交流事業） ○知識（学力）をつける（基礎学力の向上（月例テストの実施・もちこタイムの徹底）、音読・歌声集会、話し方教室（近隣中・高校の放送部を招聘）、豊かな心を育てるお話会）

佐 治	<p><u>【確かな学びで、豊かな心を育み、ともに伸びようとするさじっ子の育成 ～感動体験や地域での学びを通して豊かな心やたくましさを育む教育の創造～】</u></p> <p>○1・2年生 主に生活科（花、野菜づくり名人との交流体験活動、動物とのふれあい体験、佐治保育園の園児との交流他）</p> <p>○3～6年生 主に総合的な学習の時間（地域探検、梨づくり、ながし雛体験、佐治川・佐治石・星の学習、佐治谷話、和紙づくり、用瀬小学校との交流活動他）</p> <p>○そよかぜ・なかよし学級（1・5年）（花・野菜作り、佐用交流会、鳥取養護学校との交流）</p> <p>○全学年 主に生活科・総合的な学習の時間・特別活動（共通感動体験、野菜・花作り、飼育活動、さじっ子文集）</p>
宝 木	<p><u>【自分の考えを持ち、考えをつなぎ合いながら、意欲的に学ぶ子の育成 ～人とかかわりを大切に～】</u></p> <p>○学級経営の見通しをしっかりと持ち、学級活動を柱として充実させることで自己肯定感のある集団作りをめざす。特に話し合い活動に力を入れることで、自分たちで解決法を模索しながら生活を改善していく力を身につけさせる。</p> <p>○全校活動において、縦割り班を生かして計画的に活動を行うことで、多様な経験とかかわり合いを積み重ね達成感を味わわせながら、共に伸びていこうとする集団意識を高める。</p> <p>○地域の方々とかかわる体験活動・交流活動を取り入れることで、言語意識の向上と自己表現力の育成を図る。</p> <p>○外国の文化について知り、自国文化と比較して理解を深めるとともに、日本で活動する人の生き方を学ぶ。また、英語を実際に使用してコミュニケーションを行うことで今後の活動の意欲を高める。</p>
瑞 穂	<p><u>【心豊かで自ら考え行動する瑞穂っ子の育成 ～地域とつながり、交流を深め、心ときめく～】</u></p> <p>○学力の向上（基礎学習の時間、体験活動と道徳の時間の関連の明確化と研究授業の実施、気高中学校区内の小学校との交流学习の実施、ひかり保育園・気高中学校・隼小学校・県外の学校との交流、全校音読会、補充学習の実施、全校スピーチ、川柳作り、N I E実践校としての取組他）</p> <p>○先輩に学ぶ（学校公開日の活用、地域の方をゲストティーチャーとして招聘、学校新聞の全地域配布）</p> <p>○豊かな体験活動の推進（地域の方や保護者との米・さつまいもの栽培、生姜・浜茶の栽培、異学年による縦割り集団活動、全校連凧作り他）</p> <p>○ボランティア活動（花いっぱい運動、瑞穂地区ふれあい町づくり推進事業への参加他）</p> <p>○国際理解教育の推進（外国籍の方や海外での生活経験のある方を招いての講演会等）</p>
浜 村	<p><u>【働き、学び、つなぎ、心と体を鍛え、夢に向かって歩み出す浜っ子の育成 ～合意形成能力と社会参画の力の育成をめざして～】</u></p> <p>○一人一鉢・学年園での栽培活動、清掃活動などの勤労体験活動</p> <p>○学習習慣と読書習慣の定着、家庭学習の充実、指導法の工夫改善</p> <p>○全校縦割り班活動や各種児童会活動の充実と活性化、学級活動の充実によるよりよい人間関係に支えられた学級づくり、地域の方々との交流を通じた郷土愛の育成</p>

	<p>○強靱な精神は強靱な身体に宿るというスタンスのもと、生活習慣の確立と休まず学校へくることの奨励、浜っ子健康プランの実施と水泳・マラソン・なわとび等体力づくりの重点化</p>
逢坂	<p>【逢坂まるごと夢学校】</p> <p>○豊かな表現活動（全校表現活動（鳥の劇場）、意見発表会、詩の創作と詩・名文の暗唱、心と体のたくましい子どもづくり、特別活動・縦割り班活動）</p> <p>○豊かな交流体験活動（学校・校種間交流（町内外小中学校・保育園）、特別支援学級交流事業、地域の自然や人々との体験交流（くろぼこ餅つき）、ボランティア活動の推進（近隣施設での社会福祉活動、クリーン・クリーン活動や花いっぱい運動）、生活科・総合的な学習での探究活動（くろぼこ発表会）他）</p>
鹿野	<p>【学ぶ力とかかわる力を持ち 鹿野を愛し誇りに思い、高い志をもつ子どもの育成】</p> <p>○各教科の基礎基本（知識・技能等）の確実な習得と活用能力の育成に努める</p> <p>○なかよし班などの集団の中でよりよく行動できるようにするための取組の推進</p> <p>○自己目標を設定し、意欲的に取り組む仕掛けや機会、場面を計画する（家庭学習、自主学習、読書、水泳、マラソン、なわとび、学習発表会等）</p> <p>○道徳教育の充実をめざした授業実践と横断的な指導を推進する（生活場面での指導の徹底：あいさつ、そうじ、はきのもそろえ、だまって集合だまって解散、言葉遣い、ルールの遵守等）</p> <p>○地域の人材を活用して、地域連携の充実を図る（総合的な学習の時間において、地域の特色や素材、人材を生かす）</p> <p>○幼小中鹿野町教育振興会の取組を充実する</p>
青谷	<p>【「よく学び 生きる力を身につけた 心身ともに活力ある いきいき青谷っ子」の育成】</p> <p>【「ふるさと青谷を思い 夢や志の実現に向け ねばり強く努力する子」の育成】</p> <p>○仲間づくり（縦割り班活動、学校園での野菜づくり、花いっぱい活動、コミュニケーション学習）</p> <p>○青谷の自然や人とふれあう体験活動（びわの栽培・収穫体験、盲導犬活動、青谷町内の福祉施設との交流、宿泊体験活動、古代米作り体験と収穫祭、すくすく保育園との交流、世界に一つだけの卒業証書づくり、和紙創作活動・上寺地遺跡学習等）</p> <p>○外国の方との交流活動</p> <p>○和紙職人・上寺地遺跡を守る会の方等に学ぶ</p> <p>○図書館祭り</p> <p>○「いきいき青谷っ子のあゆみ」「いきいき青谷っ子表彰」の活用</p>

〈中学校の部〉

校 名	事 業 名 及 び 事 業 の 内 容 等
東	<p>1 <u>本校【伝え合う・繋がり合う・響き合う ～関わり合いを活かした学力向上の取り組み～】</u></p> <p>○学芸発表会（学級・学年・全校合唱・校区4小中学校PTAと中学生との合同合唱、弁論の発表等）</p> <p>○校区小学校・公民館での吹奏楽演奏</p> <p>○『思いやりと自治』をテーマとした校内環境の充実（校内掲示、学級掲示の工夫）</p> <p>○東翔フォーラム（職場体験学習に向けての講演会）</p> <p>2 <u>分校【自己の変容を促す出会いや関わり合いを大切にしている体験活動】</u></p> <p>○栽培（農業）体験活動 ○出前おもしろ実験室 ○制作活動手芸・工芸</p> <p>○地域行事体験</p>
西	<p><u>【中心市街地の特徴を活かした、温かさ・学び・自治でつながる学校づくり ～自分らしさを大切に、仲間と喜びを分かち合い、自ら判断し行動できる生徒の育成～】</u></p> <p>○「仲間づくりを基盤とした自治力の育成」に関する取組（QU検査の実施と分析、緑地環境ボランティア活動、清掃美化ボランティア活動、資源回収活動、福祉活動、縦割り活動）</p> <p>○「温かく豊かな心の醸成」に関する取組（命の学習、保育実習の実施、文化祭における学習発表）</p>
南	<p><u>【全国一の学校創り事業】</u></p> <p>○校内緑化事業（花いっぱい学校づくり）</p> <p>○家庭学習推進事業（「南中 学問のすすめ」の作成）</p> <p>○凡事徹底事業（「日々の挨拶のあり方を見直す」・「黙って掃除をしながら自分と向き合う」・「時間の大切さを考える」の3つの視点で自発的な活動を支援し講演会等で意識高揚を図りながら学校生活の改善を図る）</p> <p>○福祉施設訪問（特別支援学級生徒の自立活動、傘踊りの披露）</p>
北	<p><u>【「響き合い切磋琢磨する学校づくり」～高め合い、認め合い、鍛え合う生徒の育成～】</u></p> <p>○授業改革の工夫（各教科で目指す生徒の具体的な姿をイメージした授業構成、教科会の充実による授業改革及び授業研究会の開催、校区小学校との授業交流、高校との授業交流、授業改革ステップアップ事業（国語・数学を中心に）、家庭学習の習慣形成（自主学ノートの工夫、テストの見直し等）、電子黒板の積極的な利用）</p> <p>○人間関係（仲間）づくりの推進（全校道德の実施、構成的グループエンカウンターと対話法等の活用、学級集団づくり・人間関係づくりに係る職員研修、Q-U検査を効果的に活用した学級集団づくり（人間関係づくり）、縦割りグループによる活動）</p> <p>○リーダー育成を柱にした生徒会活動（生徒会リーダー研修会、環境改善活動、掃除プロジェクト、縦割り掃除・縦割り合唱）</p> <p>○部活動の充実（部活動懇談会の実施、部長会の充実、北辰タイムの実施）</p> <p>○地域に生きる学校づくり（学校便り「北辰だより」の地域回覧、北中フォーラム、授業公開週間、生徒会企画での地域の清掃活動、箏演奏等）</p>

江 山	<p>【「自信」と「活力」に満ちた江山中学校生徒の育成 ～ 場に応じて、自分の考えを表現できる生徒に ～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校行事」を通して（生徒が主体となって活動できるような手立てを講じ、活躍の場、表現の場を増やす） ○「生徒会活動」を通して（生徒の手による説明や表現の場を増やす） ○総合的な学習の時間（地域人材の活用）」を通して（学年のテーマにおける単元構成を工夫し、地域人材活用（先輩に学ぶ）場面を増やす） ○「PTA行事」を通して（（年3回のPTA研修会への生徒の参加、生徒・保護者・地域の先輩・教職員等によるパネルディスカッション） ○「ICT活用」を通して（タブレット型PC等の活用）
高 草	<p>【志高くさわやかに 高草となれ 種をまけ ～「自主・友愛・創造」の学校づくり～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○互いに高め合う集団づくり事業（全校生徒のQU検査） ○「いのち」や「心」をテーマにした事業（教育講演会） ○夢をもって自分の未来を考える事業（事業所訪問） ○植物を育て心を耕す事業（校内緑化のための花植物栽培） ○研究資料等作成・発信事業（研究資料等の作成・発信）
湖 東	<p>【「夢の実現】】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化や充実を図る取組（家庭学習の習慣化（家庭学習時間達成の取組、「達成カード」）） ・個に応じた学力向上を図る取組（学習ナビの活用） ○生徒会活動（着こなしセミナー、We love Flower's Plan、掃除講演会・掃除強化週間・キラッと大作戦） ○生活向上（講師を招聘しての喫煙防止教育講演会・いのちの教育講演会の実施） ○学年及び全校（全校対象の教育講演会（生き方フォーラム1）、白兔養護学校との交流活動、1年生対象の教育講演会（生き方フォーラム2））
湖南 学園	<p>【未来への発信こなんプロジェクト ～「拡がる」人づくり・地域づくり～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション科及び総合的な学習の時間の年間指導計画の見直し ○外部講師を招いた講義・演習・体験活動 ○達人に学ぶ（専門的知識や技能を持った方を講師に招聘） ○まちづくり研究（地域の活性化をテーマにした探求型学習の展開と地域内外への発信） ○湖南の福祉を考える（地域研究）（湖南地域の福祉施設の訪問・高齢者との交流） ○先輩に学ぶ（修学旅行先での湖南出身の方との交流、先輩の生き方に学ぶ）
桜ヶ丘	<p>【「確かな学力」と「自主・自立の態度」を身につけた生徒の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動の活性化（生徒会スローガンの屋上掲示等） ○主体的な学習の充実（学習の手引き等の作成、自分の考えを書いて発信する活動を通して表現力の向上を図る） ○保育園との交流（幼児ふれあい体験学習） ○性教育講演会（助産婦、臨床心理士、看護師を招聘） ○進路意識の高揚（地域の人材を活用した職業や生き方にかかわる講話） ○環境美化活動の推進（生徒主体による花植えと管理）

	○道徳性の滋養（道徳の時間の授業研究会を継続的に開催）
中ノ郷	<p><u>【今日あることに感謝し、豊かな人間性や創造性に富み、たくましく生き抜く人間力を育成する】</u></p> <p>○確かな学力の定着と学ぶ意欲の向上 （ICTの活用、全校全学級での「朝の学び」の実施、学習の手引き「学びの道しるべ」の活用、生徒会と連動した家庭学習時間調べやノートコンクールの実施等）</p> <p>○キャリア教育の充実 （生き方セミナー（各業界で活躍している社会人の方を講師に招聘）、先輩に学ぶ、ハートフルセミナー（全校生徒面接）、夢の実現に向けた進路学習、支え高め合う仲間づくり（Q-U調査の活用）、豊かな心の育成（生命の尊重を軸とした道徳教育、人権教育、特別支援教育の推進、鳥取養護学校との交流学习等）</p> <p>○たくましく生き抜くための心と体と学びの環境づくり （命の教育の実施（WYSH教育の研修、レッドリボンサークル活動）、学びの環境づくり（愛校作業、花いっぱい運動等）</p>
国 府	<p><u>【地域・学校・自らに誇りを持ち、活動する生徒の育成】</u></p> <p>○あいさつ運動の継続</p> <p>○地域行事への参加・ボランティア活動</p> <p>○自治会と一体となった花作り・学級の花壇作り</p> <p>○地域の史跡である池田家墓所の清掃活動</p> <p>○国府町の伝統文化である傘踊り同好会による演技発表</p> <p>○講演会の開催</p>
福 部	<p><u>【地域の特色・教育力を生かした生徒の育成</u> <u>～らっきょうの植え付けから収穫、広報活動、生き方セミナーまで～</u> <u>～地域と密接に関わるボランティア活動～】</u></p> <p>○地域の特産「らっきょう」を中核に据えた実践（らっきょうの広報活動（東京で、地域で生産されたらっきょうと「地域のタウン誌」を手渡す）、勤労活動（らっきょうの洗浄、選別、箱詰め作業体験）、地域の方に学ぶ「生き方セミナー」他）</p> <p>○地域と連携したボランティア活動（生徒会活動、花づくり、学校支援ボランティアとの連携他）</p> <p>○子どもたちの社会性を育む学級集団づくりの実践（hyper-QUを活用した不応やいじめを生み出しにくいよりよい集団づくり、地域と連携したボランティア活動に不可欠な社会性の育成）</p>
河 原	<p><u>【自立（自律）と創造の学校づくり】</u></p> <p>○基本的な生活習慣及び学習習慣定着のための環境づくり</p> <p>○生徒会リーダー研修会</p> <p>○地域からの公募者による個人面談の導入（3年生） ○本に親しむ会（全学年）</p> <p>○河原町の未来を語る会（全学年） ○「働く人に学ぶ」の実施（1年生）</p> <p>○地域との交流活動（幼稚園交流、小6・中1交流） ○学校公開週間</p> <p>○夏休みボランティア ○性教育に関わる講座</p>

千代南	<p>【生徒の社会的自立をめざし、家庭・地域とともに進める新しい教育の創造】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学力向上 (教科の面白さを感じる授業づくり、生涯学び続ける学習習慣の育成、共に高まる学習集団の育成、適切な評価による自らの成長の確認) ○仲間づくり (個が育ち集団が高まる仲間づくりの推進、主体的に集団に関わっていこうとする自治力の育成、自らを振り返り理想とする生き方と比較しながら考える力の育成) ○健康づくり (心身の健康に関する自己管理能力の育成、生徒理解と相談活動の充実、家庭と連携した生活習慣の改善、美しく、安心して過ごせる学校環境の整備) ○家庭・地域の連携づくり (生徒の社会的自立力の連携した育成、学校情報の発信と学校公開、効果的な地域連携システムの構築、保護者や地域の声を生かした学校づくりの推進)
気高	<p>【「地域に学び、地域に根ざした特色ある学校づくり」 ～気高町の郷土芸能の伝承と地域の人材・教育的資源から学ぶ～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気高町の郷土芸能「貝がら節踊り」の継承から学ぶ(2、3年の総合的な学習の時間、全学年女子生徒が保健体育での地域指導者による指導を受ける) ○地域で活躍している社会人を招いての講演会(「生き方フォーラム」)の実施 ○物語の「読み・聞かせ」(地域ボランティアからの指導、「昔話お話し会」開催他) ○花いっぱい運動(気高町敬老会との交流会他) ○小学生の体験授業(小中連携) ○中学校3年生の保育実習
鹿野	<p>【生徒が生き生きと活動し、地域に愛される美しい学校づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域への発信(学校総会の開催、教育活動計画誌「SMAP」の配布、公民館での生徒作品展示) ○美しい環境づくり(生徒が育てたプランターの公共施設への配布) ○地域との関わりを取り入れた生徒活動・生徒会活動(全校奉仕活動、地域の演劇集団による表現活動(演劇)指導、すげ笠・川柳づくり、「鹿野音頭・さんこ」の継承他)
青谷	<p>【青中ミッション 「義務教育の出口として、青谷の子に育てたい「生きる力」を培い、青谷の人々に期待され、信頼される学校をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鳥取大学へ出かけ、大学の授業を体験する。 ○キャリアデザインのための地域人材や外部講師等による講話や指導 ○運動会スローガン(垂れ幕)作成、文化祭モザイク壁画(木枠)作成、生徒会のあいさつ運動(あいさつマスターのバッジ) ○進路適性診断システム「PASカード」の実施(1年)